

資料編

1 葛飾柴又の文化的景観保存・活用推進委員会

葛飾柴又の文化的景観保存・活用推進委員会名簿(順不同、敬称略)
委員長 駒井亜子(教育次長、平成30年度) 安井喜一郎(教育次長、令和元年度～令和3年度)
副委員長 加納清幸(教育委員会事務局生涯学習課長、平成30年度～令和3年度)
委員(学識経験者) 伊藤 毅(都市建築史、東京大学名誉教授、平成30年度～令和3年度) 清水重敦(建築、京都工芸繊維大学デザイン・建築学系教授、平成30年度～令和3年度) 福井恒明(景観工学・景観行政、法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科教授、平成30年度～令和3年度) 窪田亜矢(都市工学、東京大学工学部都市工学科特任教授、平成30年度～令和3年度) 初田香成(建築、工学院大学建築学部建築デザイン学科准教授、平成30年度～令和3年度)
委員(柴又地域代表) 須山 保(帝釈天題経寺 寺務長、平成30年度～令和3年度) 石川宏太(柴又まちなみ協議会 理事長、平成30年度～令和3年度) 関 益義(柴又自治会 会長、平成30年度～令和3年度) 天宮久嘉(柴又神明会 総務、平成30年度～令和3年度) 瀬尾 滋(柴又中央会 会長、平成30年度～令和3年度) 島村政男(柴又親商会 会長、平成30年度～令和3年度) 木暮隆一(旧家代表、平成30年度～令和3年度) 杉浦 健(旧家代表、平成30年度～令和3年度) 斉藤一雄(旧家代表、令和元年度～令和3年度)
委員(葛飾区関連部課委員) 今井直紀(産業観光部観光課長、平成30年度～令和元年度) 中島恵美子(産業観光部観光課長、令和2年度～令和3年度) 目黒朋子(都市整備部都市計画課長、平成30年度～令和3年度) 浅倉 清(都市整備部街づくり推進課長、平成30年度～令和2年度)
オブザーバー 青木達司(文化庁文化財部記念物課名勝部門文化財調査官、平成30年度) 永井ふみ(文化庁文化財第二課文化的景観部門調査官、平成30年度～令和3年度) 下間久美子(文化庁文化財第二課文化的景観部門主任調査官、令和元年度～令和3年度) 鈴木徳子(東京都教育庁地域教育支援部管理課課長代理、令和2年度～令和3年度)
事務局 教育委員会事務局生涯学習課郷土と天文の博物館

【整備計画策定までの推進委員会の経過】

		年月	議題
平成三〇年度	第一回	平成30年10月22日	推進委員会の体制及びスケジュールについて 等
	第二回	平成31年2月19日	柴又駅前広場について 等
令和元年度	第一回	令和元年5月20日	令和元年度の体制について 等
	第二回	令和元年11月14日	整備計画の策定の進捗について 等
令和二年度	第一回	令和2年12月11日	整備計画の策定の進捗について 等
	第二回	令和3年3月25日 (書面開催)	個別ヒアリングについて 等
令和三年度	第一回	令和3年6月14日	川甚について 等
	第二回	令和3年10月13日	整備計画素案 等
	第三回	令和3年11月18日	整備計画素案 等
	第四回	令和4年2月9日 (書面開催)	整備計画案 等

2 葛飾柴又の文化的景観保存・活用推進委員会作業部会

<p>葛飾柴又の文化的景観保存・活用推進委員会作業部会名簿（順不同、敬称略）</p>
<p>部会長</p> <p>加納清幸（教育委員会事務局生涯学習課長、令和元年度～令和3年度）</p>
<p>部会員（学識経験者）</p> <p>伊藤 毅（都市建築史、東京大学名誉教授、令和元年度～令和3年度） 清水重敦（建築、京都市芸繊維大学デザイン・建築学系教授、令和元年度～令和3年度） 福井恒明（景観工学・景観行政、法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科教授、令和元年度～令和3年度） 窪田亜矢（都市工学、東京大学工学部都市工学科特任教授、令和元年度～令和3年度） 初田香成（建築、工学院大学建築学部建築デザイン学科准教授、令和元年度～令和3年度）</p>
<p>部会員（葛飾区関連部課）</p> <p>高橋裕之（教育委員会事務局生涯学習課郷土と天文の博物館館長、令和元年度～令和2年度） 戸上忠明（教育委員会事務局生涯学習課郷土と天文の博物館館長、令和3年度） 齋藤 繁（教育委員会事務局生涯学習課郷土と天文の博物館担当係長、令和2年度） 小野寺耕正（教育委員会事務局生涯学習課郷土と天文の博物館担当係長、令和3年度） 小西健司（産業観光部観光課係長、令和元年度～令和3年度） 谷口 榮（産業観光部観光課学芸員、令和元年度～令和3年度、令和3年度5月より郷土と天文の博物館兼務） 原田 諭（都市整備部調整課主査、令和元年度～令和2年度） 大谷幸平（都市整備部都市計画課街づくり計画担当係長、令和元年～令和2年度） 浅倉 清（都市整備部都市計画課都市計画担当係長、令和3年度）</p>
<p>オブザーバー</p> <p>永井ふみ（文化庁文化財第二課文化的景観部門調査官、令和元年度～令和3年度） 伊藤敏行（東京都教育庁地域教育支援部管理課課長補佐、令和元年度） 鈴木徳子（東京都教育庁地域教育支援部管理課課長代理、令和2年度～令和3年度）</p>
<p>事務局</p> <p>小宮浩貴（教育委員会事務局生涯学習課郷土と天文の博物館主査、令和元年度～令和3年度） 小峰園子（教育委員会事務局生涯学習課郷土と天文の博物館学芸員、令和3年度） 山本 俊（教育委員会事務局生涯学習課郷土と天文の博物館学芸員、令和2年度～令和3年度）</p>

【整備計画策定までの作業部会の経過】

		年月	議題
令和元年度	臨時	平成31年4月11日	柴又街道拡幅工事について 等
	第一回	令和元年6月27日	作業部会の体制及びスケジュールについて 等
	第二回	令和元年7月25日	動態的保存のための自治の仕組み、地元参加の仕組みの検討 等
	第三回	令和元年10月7日	柴又駅前広場について 等
	臨時	令和元年12月9日	柴又駅前広場の価値を守るための意見交換 等
	第四回	令和2年1月6日	整備計画策定の進め方について 等
	臨時	令和2年1月21日	重要な構成要素の保存について 等
	臨時	令和2年2月4日	重要な構成要素の保存に係る検討及び現地調査について 等
	第五回	令和2年2月12日	整備計画策定の進め方について 等
	令和二年度	第一回	令和2年10月30日
第二回		令和2年11月11日	整備計画第1・2・5章について 等
第三回		令和2年11月18日	整備計画第1・2・3・5章について 等
第四回		令和2年11月25日	整備計画第1・2・3章について 等
第五回		令和2年12月2日	柴又街道拡幅事業について 等
第六回		令和2年12月23日	整備計画策定について 等
第七回		令和3年1月20日	葛飾柴又の文化的景観配布チラシについて 等
第八回		令和3年2月22日	整備計画策定スケジュールの変更について 等
第九回		令和3年3月23日	整備計画の策定の進捗について 等

【整備計画策定までの作業部会の経過】

	年月	議題
令和三年度	第一回	令和3年4月26日 スケジュールについて 等
	第二回	令和3年6月9日 整備計画の検討状況について 等
	第三回	令和3年8月24日 整備計画骨子案 等
	第四回	令和3年10月7日 整備計画素案 等
	第五回	令和3年11月10日 整備計画素案 等
	第六回	令和4年2月4日 整備計画案 等

3 個別ヒアリングの実施結果概要

(1) 目的

本計画策定に向けて、具体的な計画の立案のため、国重要文化的景観の選定を受けている柴又地域住民が柴又という地域に対して、過去、現在、将来にどのような思いを抱いているのか意識調査を行い、課題を抽出整理して本計画に反映させることを目的とする。

(2) 実施日及び調査の仕方

下記の各団体及び関係者へ調査票を配布し、区職員と委託業者が調査票を直接回収すると共に、ヒアリングを行い、結果を調査票へ記録した。調査票の回収及びヒアリングは、令和3年3月19日（金）から21日（日）まで行った。

(3) 調査対象

以下の柴又地域の各団体及び関係者を対象として個別ヒアリングを行った(順不同)。

(1) 柴又自治会	配布 10	回収 10	(100%)
(2) 旧家・農家	配布 14	回収 14	(100%)
(3) 柴又神明会	配布 29	回収 23	(79.3%)
(4) 柴又中央会	配布 7	回収 6	(85.7%)
(5) 柴又親商会	配布 10	回収 10	(100%)
(6) 寺社	配布 6	回収 3	(50%)
合計	配布 76	回収 66	(86.8%)

(4) 調査結果(概要)

(1) 共通項目

① 柴又の歴史や場所でどのようなところが好きですか。

A. 帝釈天と参道エリア

B. 江戸川エリア

・江戸川／河川敷(グラウンド)／江戸川土手から見た眺望／矢切の渡し／新八水路

C. 上記以外の「場所」

・八幡神社／桜並木／水神様／山本亭

D. その他

・柴又全体／寺社や木の多いところ／静かなところ<旧家・農家>

・子育てしやすい／都心にはない良さがある／年中行事／読誦会<神明会>

・大きく広がる空／挨拶／歴史が古く、その息吹を感じる<自治会>

【コメント】

・帝釈天と参道、江戸川エリアが参詣客や観光客、地元の人憩いの場となっていることがわかる。

・江戸川土手からの柴又のまちや対岸の眺望（朝、日中、夕方、夜）が好まれている。

・映画や矢切の渡しで有名な柴又が全国的に知られている。

・30年代のまち並み。

②-1 柴又で昔と比べて風景や雰囲気が変わっていないところはありますか。

A. 帝釈天と参道エリア

B. 江戸川エリア<旧家・農家>

・江戸川／河川敷／江戸川土手／金町浄水場の取水塔／矢切の渡し

C. 人情<神明会>

- ・隣人同士の繋がり／人情味

D. その他

- ・江戸川エリア（江戸川、河川敷、土手、取水塔、矢切の渡し）／隣組／保守的なところ／畑がまだあるところ／水神／自宅<旧家・農家>
- ・八幡神社／真勝院／京成電車／水神様／草だんご<旧家・農家>
- ・八幡神社／神獅子<親商会>

【コメント】

- ・（個々に見ると変わっているかもしれないが）全体として見ると大きく変わっていないと思っている人が多い。

②-2 風景や雰囲気が変わったところがありますか。

A. 柴又駅前（周辺）<旧家・農家以外>

B. 田畑（池、空地含む）が減って、宅地化（マンション、戸建て建物）した

- ・マンションや建売住宅が増えた（ファミリー世帯が多くなった）／農家が減り宅地が増えた／北総線の開通で徐々に宅地や人が増えた／畑への日照が少なくなった<旧家・農家>
- ・マンションなどができて自然のゆったり感、のどかな風情がなくなった<自治会・神明会>
- ・文化的景観に選定されてから土地所有者の移動が激しくなり、その後、アパートや小さな戸建ての家が増えてまちの雰囲気がだいぶ変わってきたように思う／新建材の同じような家が建ち並び、少し味気ない気がする<親商会>

C. 江戸川沿い

- ・土手が整備されてきれいになった／土手周りの趣がなくなった<神明会>

D. 参道

- ・参道はアスファルトで電線もすごかった／参道で鰻を捌いていた／参道の店舗の商い／参道の店の子ども同士の繋がりも希薄になった／煎餅屋の裏には干し場があった<自治会・神明会>

E. 帝釈天境内

- ・帝釈天の境内には石塔があった／昔は、帝釈天の南大門のところに犬連れ禁止の立て札があり、境内には犬は入れなかった<神明会>

F. 賑わい

- ・お祭りや諸行事に出ていた出店が激減し、家族連れのにぎわいが減った／庚申の日にはサーカスが来たりして見世物で賑わっていた／子どもや親の公園でのマナーが悪くなった<旧家・農家>

- ・日常の買い物で親商会が賑わっていたが、スーパーマーケットが出来て変わった（賑わいがなくなり店も少なくなった）／山本亭や記念館、商業施設の建設など大いに変わった／庚申の日のお客さんが少なくなった〈神明会〉

【コメント】

- ・だれもが「田畑や空き地などがマンションや一戸建てとなり、自然や静かでのどかな風情が失われるなど、環境が変わった」と感じている。
- ・宅地化が急激になったはじまりを 1980 年代からと捉える人も多いが、一部に文化的景観の選定に伴う変化と捉える人もいる。

③ 柴又にかかわる活動をされていますか。

活動をされている方はどのような活動をしていますか。

- ・回答者のだれもが、何らかの地元の活動をしている。

【コメント】

- ・八幡神社、消防団、まちなみ協議会に参加している等の回答があった。
- ・ヒアリングの仕方にもう少し工夫が必要だったのではないかと。地元と協働で行っているイベントについて参加しているかどうか尋ねるとか、鎮守の八幡神社の氏子となっているか、どこの寺院の檀家なのかも、本調査を分析するうえで重要な要素となるのではないかと思う。

④ 景観を考えていくどのような活動に参加したいですか。

- ・植栽を通じて貢献したい／文化的景観の行事なども参加したい／柴又の良さを多くの人に知っていただくために各所を案内する活動をしたい（ボランティアガイド）／昭和の風景や失われた風景などがアーカイブされ、現地などでみられるとよい／地域密着型による自然保護など〈自治会〉
- ・景観保全／帝釈天のイベント／文化的景観記念イベント／商店街のイベント／文化的景観の魅力を引き出せるような取組／江戸川の植樹活動／地域全体で取り組める（マンション住人も含め）イベント／纏など伝統的なもの〈神明会〉

【コメント】

- ・植栽やまちの美化と回答する人も多かった。
- ・「景観のためというとは具体的には思い浮かびませんが、地元では東京で初めて重要文化的景観に選定されたという認識は薄いようです。それをどうアピールするのか、そこから何かしらの活動の端緒があるように思います。」や「柴又に住んでいる方が、文化的景観について理解を深め、実際どのように感じているか穏やかに話し合えるような機会を持つ活動」という回答もあり、国重要文化的景観選

定後の地元への周知活動不足があり、地元における文化的景観を理解してもらう説明会やイベントの開催とともに、関係者や団体間で文化的景観について気軽に話し合えるワークショップやきっかけ作りが求められている。

⑤ 新たに柴又に住む方に伝えたい柴又の魅力はどのようなものですか。

A. 子育てしやすい・住みやすい

- ・「子育てしやすい」「安全」「自然が豊か」／子育てや教育が優れている<旧家・農家>
- ・犬の散歩に最適／子育てには良いまち／住み心地の良い地域／路地裏の安堵感<神明会>

B. 環境と利便性が高い

- ・江戸川や河川沿いの風景／自然が身近にある／ベッドタウンに適しており、便がいい／下町であり、静かで空気がきれい<旧家・農家>
- ・江戸川の流れ／静かな雰囲気が一番の魅力／心おちつく帝釈様／（都心へもアクセスが良く）青くて広い空があり、江戸川土手からは眺望が良く、スカイツリーや遠くには富士山が見える<自治会>
- ・江戸川沿いの緑豊かなところ／矢切の渡し<神明会>

C. 情緒・人情・人づきあい

- ・人情豊かな（繋がりのある）まち／情緒あふれるまち<自治会>
- ・自治会／近所付き合いにあまり気を遣わず、ざっくばらんな下町の人々の好きがあり、ゆったりと生活できる場所<旧家・農家>

D. 帝釈天や参道

- ・帝釈天や参道／温かい人（人情味）とまち並み／個々の商店の魅力／生業／観光地でもあるが、庶民的なところ／信仰のまち（伝統行事）<神明会>

E. 歴史を感じさせる佇まいがいい

- ・昔と今が混在した静かなまち並み／帝釈天、参道、八幡神社、江戸川土手などを大切に思っている人が柴又には多く、もっと共有してほしい／東京の郊外として、都民の原風景とってくれていることが有り難く、これを大切にしていこうと思う人がいることが大事／駅から帝釈天までの趣のある参道のまち並み／柴又が国の文化的景観に選定されたことを伝え、そのまち並みで生活することの楽しさ／伝統行事<旧家・農家>
- ・文化的景観（歴史あるまち）／柴又の歴史的の魅力<神明会>

【コメント】

- ・柴又は環境がよく、住みやすく、子育てしやすいと思っている人が多い。
- ・柴又は、東京の郊外、東京の田舎など、都心との絶妙な距離感があることが魅力

だといえるかもしれない。

- ・柴又八幡神社の神獅子や纏などの伝統的な行事も魅力と思っている人も多く、各種イベントも含め若い人も参加してほしいという思いが感じられる。

(2) 各グループのヒアリング項目に関して

① 自治会

○住宅地の変化について感じていることを教えてください。

A. 宅地化・建て直し

- ・集合住宅や新築戸建てが多くなっている／マンションが多くなり、景観が損なわれる／土地の細分化が進み、家の密集化が進んでいる／家屋の建て直しなどがみられる／緑は少なくなり、庭も削られ、残念／以前は庭のある家が多く、緑もありました。それが何時しか更地となり、小住宅が密集するまちになってしまいました。よく言えば人口が増え発展したのですが、生き物をほとんど見かけない環境になってしまい、寂しく感じます

B. 子どもへの取組

- ・(子どもが減ってきたこともあり、自治会が関係したイベントが減ってきた) これ以上イベントを減らさないようにしたい／子ども向け(百人一首大会、夏休みお楽しみ会、凧揚げ大会など)のイベント

感想・想い等

- ・文化的景観をしっかり守りたい
- ・様々なイベントに参加して文化的景観の啓発に協力していきたい
- ・重要文化的景観に選定されたことは名誉なことだと思いますが、自治会がどう関わって、どう守っていくかとなるととても難しい問題だと思います
- ・役員や構成員に文化的景観のことがまだよく理解されていないように思います。自治会と文化的景観の関係がどう関わるのかがわかりません。例えば、柴又駅や柴又街道の拡幅は自治会とは無関係で進められています
- ・新しいものを取り入れながら伝統あるものを大切に残していきたい
- ・下町の良さと、隣同士の付き合い
- ・清掃活動を通していつでも花のある明るいまちづくり
- ・一つ一つの行事を丁寧に行いたい

② 旧家・農家

○建物・生垣の維持管理や農業に関して、
工夫していることや気をつけていることはありますか。

A. 生垣や門塀等工作物、庭木の管理状況

- ・(重要な構成要素となっている) 門塀や生垣の維持管理を行っている／庭(高木)や生垣は植木屋さんに頼んで手入れをしている(年1~2回、2年に1回)／高木のメンテができないので伐採し、生垣もブロック塀に替えた／維持管理には費用が掛かるため、手の届く範囲は自分でやっている／重要な構成要素となっているので、コンクリートブロック塀をいつかは生垣に直す時期が来ると思っている／秋になると落ち葉掃きを行っているが、今は洗濯物への匂いが移るなど焚き火が出来なくなった(庭でバーベキューもしにくくなった)／樹木は実や花の咲くものを植えている／花が道路に落ちて掃除が大変である。冬になるとサザンカが咲き蜜を吸いにメジロがくる／台風時に江戸川から南風が吹き込むので、敷地の南に椎の木を防風林として植えた

B. 農業や農作物関係

- ・近隣の迷惑にならないようにビニールハウスを設置／小松菜、枝豆、キャベツ、ブロッコリー、ネギを生産しており、小松菜は学校給食や元気野菜直売所に卸している／日当たりが悪くなり露地栽培は難しい

C. その他

- ・建具などは手を加えて維持管理している／重要な構成要素となっているところは現状を維持していく／今の家の配置は農家のステイタスの構えで、農業をやっているこんな家に住みたいと思って建てた／井戸小屋は、今も野菜を洗うところとして使っている／統一感のあるものとしたい

感想・想い等

- ・ブロック塀だと地震が心配、生垣は害虫や散布した薬品の匂いの苦情がくる
- ・生垣等の管理には年間40~50万かかる
- ・増築する際に正面の道路を後退するように役所からいわれ、生垣をやめてしまった
- ・40年代に建てた家のメンテナンスを考えている
- ・昔は近所の理解もあって焚き火ができた。庭のない家の造りが増えたことも関係しているかも知れない(庭のない家から苦情がでる)
- ・緑が少なくなり鶯がこなくなった

③ 柴又神明会・柴又親商会・柴又中央会

○参道の店舗として大切にしていること、工夫していることは何ですか。

A. 店舗の維持管理

- ・店舗の維持管理（変わらない魅力もあると思う）・参道側の外観を助成で和テイストにした／看板、庇の維持／外観がまちの雰囲気合うよう気をつけている／閉めた後の外観／佇まい／ガイドラインに則してリニューアルしたく神明会>

B. 接客・商いの仕方

- ・美味しい商品や料理を提供できるように心掛けている・お客様への接客／店内には昔からの家具や小物を置き、いつでも見ていただけるようにしている／対面販売なのでお客様とのふれあいを大切にしている／笑顔でお帰りいただく／海外のお客様に日本の良いところを紹介できるよう品物を陳列している／店はオープンにし、入りやすいように心掛けている／自由に商品を選べる／一店一品く神明会>
- ・お客様を大切にしている（お客様の意見にそえるようにしたい）／当会は、店舗の美化を維持するためのものではなく、柴又地域全体の価値観を向上させるために活動している。常に柴又を訪れる観光客の目を楽しませ、また車で来る人達の印象にも配慮している／文化的景観を踏まえ、今までの商店を維持していきたい。しかし、個人の所有物であり、商店街が疲弊している状況で、今後どうなってしまうのか危惧している／お客様に喜ばれることを喜びとする人でいっぱい親商会でありたい／知っている人にはなるべく声をかけています／自分の商売を守ること／地元の方々と共に発展（利便性、ふれあい）／お店の前に植物を置くなど、明るくしている／団結力（絆）／柴又はとても素晴らしい楽しいまちだといわれたい／会長は、事業報告など会員に分かりやすく説明くださるので大変助かっている。会長を中心に会員が一丸となって親商会を盛り立てていきたいと思う／小売店をなくさないように／自分の商売／地元の方々と共に発展（利便性、ふれあい）／商店街会員様の繁栄を守っていきたい／地域の人とのかかわりく親商会>
- ・柴又を訪れた方に良い思い出を残していただけるように接客している／アフターコロナに関しては、今後の検討課題／コロナ禍でオンライン化は避けられないが、安全面に配慮しながら対面での接客は残していきたいく中央会>

C. その他

- ・変えないでといわれている（変えないこと）／庭木の手入れ／変えない開発／イベントへの参加や協賛／富士山の溶岩を用いた庭／柴又の絆く神明会>／おりつ地蔵／柴又街道の銀杏並木は、今後も是非残したい／柴又街道沿いの植栽く親商会>

感想・想い等

- ・外観（参道のまち並み）や親しみやすい雰囲気（人情）を守っていききたい
- ・（いろいろな人に懐かしいといわれる）懐かしい感じを守りたい
- ・お客さんへの声掛けや接客時の活気
- ・先ず我々の住環境を中心に据えた取組
- ・年代関係なく参加できるイベント
- ・パンフレットの配布に力を入れたい

④ 自由記載欄 文化的景観に関するご意見等があれば教えてください。

<各グループ>

A. 説明不足、もっと地元の説明をしてほしい・啓発活動

- ・選定したことすら知らない住人の多さに驚かされる。様々な機会を通して広報することが大切だと思う
- ・もっと大々的に文化的景観のアピールをしてほしい。景観を守るために厳しい指導をお願いしたい
- ・重要文化的な景観選定は地元ではあまり浸透していない。
- ・もっとアピールしたほうが良い。文化的景観（価値や改修など）について地元がちゃんと理解できるように説明すべき。動きが遅すぎる
- ・分かりやすいパンフレットの制作
- ・日本を代表する景観地である重要文化的景観に選定されたのに、そのイメージはまだ浸透していない。「風景の国宝」というようなアピールを前面に出したらどうか
- ・文化的景観に選定されて、いざ自分のこととなるとよくわからず、傍観者のような立場になる人が多いように感じます。文化的景観と住民をどう結び付け、関係付けるのかが今後の課題だと思う
- ・「葛飾柴又の文化的景観」の略称があつたらもっと身近に感じられると思う

B. 後継者・相続

- ・農業の後継ぎがない(20年後農地がなくなる可能性がある)
- ・土地を細分化して宅地化することも考えている
- ・対象地域において各々個別の事情もあり、土地建物について世代が代わる時に変化が出てくるのは仕方ないと思う
- ・今後の相続で、相続税の支払いのため畑の一部をマンションにすることを考えている
- ・店を閉めようかということの間接的に聞いている
- ・後継者問題

- ・ 寺社の行事等を支えてきた地元の人達が減少している

C. 助成制度・軽減措置・制度整備

- ・ 文化的景観（改修・耐震等）の助成制度
- ・ 固定資産税、法人税、事業所税などの軽減措置
- ・ 届出等のシステムの周知
- ・ 信仰的な面とともに観光的な整備を計画するのに、第三者的に助言する仕組みがほしい
- ・ 前に修繕した時RCではだめだといわれたが、消防はRC造りが良いというし、どうしたらいいかジレンマを感じた
- ・ 高さ制限があると融資が下がる
- ・ 建物の維持には金がかかる
- ・ 助成のメニューを分かりやすくしてほしい
- ・ 垣根の維持管理や門扉修理の助成制度。八幡神社の民地境のブロック塀が先日の地震で被害に遭ったが、文化的景観の補助は受けられるのか
- ・ 中通りの拡幅、道路に出っ張った家の塀もあるのでセットバックを統一してほしい

D. 施設整備

- ・ 公衆トイレの設置や駐輪場の確保
- ・ 喫煙所の設置
- ・ 参道のインフラ整備
- ・ 回遊路の整備
- ・ バリアフリーを重視した整備
- ・ バスなども駐車できる広い駐車スペース
- ・ 八幡神社の境内にベンチがあると良いが、路上生活者対策が必要か
- ・ 矢切の渡し周辺の整備
- ・ 川甚の活用（回遊性を持たせてほしい）
- ・ 川甚跡地をミニミニ道の駅として柴又の産物を売る施設になっても良いのではないか
- ・ 一部の人だけが喜ぶ整備ではなく、多くの方が納得していただける整備をしていただきたい

E. 開発・規制

- ・ 柴又街道の拡幅は文化的景観にかなり影響があり、何十年も前の計画をやる必要はないと感じる
- ・ 道路整備をしてほしい
- ・ 柴又駅はなぜ確認許可がおりたのか、木造でやってほしかった
- ・ 参道沿いでビルが建てられたら困る

- ・規制はあるけれど風致地区はゆったりした環境で良い
- ・文化的景観を守るための強い規制は好まない

F. 商い

- ・コロナ禍でお客さんが激減したが、近所のお客さんを大切にしていきたい
- ・今はコロナ禍で最悪な時だが、お互い頑張っていきます
- ・今は新型コロナ禍で最悪ですが、歯を食いしばりながら頑張ります
- ・歳末大売り出し
- ・地域住民に便利な商店街に展開していきたい
- ・訪れた人が来て良かったと思ってもらえるように
- ・（時代の変化とともに）少しずつ店の内外を変えて行きたい
- ・店を早い時間に閉めすぎではないか
- ・このまままち並みが変わらず商売が続けられたらいい
- ・私の店は、今は商品半額、レジ袋無料です
- ・庚申に来る人が（高齢者なので）年々減少していると感じる
- ・継続は難しいが、娘が2階で開業したいといっている

G. その他

- ・（気軽に）相談する窓口がほしい
- ・親商会、神明会、中央会などの方々とざっくばらんな話し合いができればよい
- ・柴又街道（延長約1,100m、面積84㎡）について、平成17年より東京都と「東京ふれあいロードプログラム」の協定を結んでおり、歩道両側の銀杏並木の植栽帯約84か所の清掃除草等を地元の高齢者団体の協力を得て、原則月1回の美化活動を行っている
- ・重要文化的景観の選定は、柴又にとってうれしいことと思います
- ・重要文化的景観とは何か、それをどう守り維持していくのか一般の方には全く関心がないように思えます。まちは時代とともに変化するものですが、葛飾柴又が重要文化的景観に選定されたのは、ある意味、時代に取り残され、現在に至っているからではないでしょうか。選定されたものの強制力がない以上、各人の思惑、利害があり、思った以上に困難なのではないでしょうか。今後どうなるのか、なかなか難しい問題です
- ・役所は、神明会ばかりに力を入れているように感じられます。他の商店会にも目を向けてほしい
- ・駅前の雰囲気を変えてほしい
- ・近代的な建物が建ち、人のコミュニケーションも減り、都心部とあまり変わらなくなると柴又の文化的景観は崩壊したと思っています。文化的景観を保存するならば柴又住民すべてをキャストやエキストラと考え、テーマパーク化するくらいの協力が必要かと思う

4 ワークショップの開催結果概要

地域住民を対象とした意見交換の場を設け、住民が感じている柴又の魅力や地域の課題、新たな「柴又」の価値の気付きや次世代に向けての主体的な活動の種を拾い上げ、整備計画に反映していくことを目的に、参加者を1グループで10名程度とし、各3グループ（参道商店街、その他の商店街、自治会・住民、旧家・農家）で開催した。

(1) 第1回目

- 開催日時**
- ① 令和3年7月7日（水）午後6時30分から午後7時50分
 - ② 令和3年7月10日（土）午前10時から午前11時50分
 - ③ 令和3年7月10日（土）午後2時から午後3時50分
- 会場** 「柴又地区センター」大会議室（葛飾区柴又1-38-2）
- 参加者**
- | | | |
|---------------|-----|------|
| ① 第1のリングの方 | 6名 | |
| ② 第2・第3のリングの方 | 10名 | |
| ③ 第2・第3のリングの方 | 5名 | 計21名 |

会議内容

葛飾柴又の魅力を再認識するため、昔あったもの、柴又の良いところ、活かしたいもの等について意見交換を行った。

第1のリングの方からは、「参道の幅員が丁度よく、直線的でないところや統一されすぎているまち並みに魅力を感じている」、「商店どうしのつながりだけではなく、八幡神社

の氏子を通して、近隣の農家や住民との深いつながりがある」、「江戸川土手から見えるいらか（葎）の景観も自慢できる」等の意見が出された。

第2・第3のリングの方からは、「昔は江戸川の水がきれいで、泳いだり、魚釣りをした」、「今でも空気がきれいで閑静であり、行事が多く、人情味豊かで人とのつながりを大事にする気質がある」、「東京近郊でありながら、田舎とも思える風景は癒しになる」等の意見が出された。



第1回目ワークショップ

「葛飾柴又の文化的景観」 ワークショップ便り

令和3年7月
第1回開催概要

－このワークショップの位置づけ－

葛飾柴又は、帝釈天題経寺やそれにつながる参道をはじめとして、古くから信仰の地として栄え、江戸川の水面や風を感じる雄大な自然に抱かれ、人情味豊かな人々の営みは人々から心のふるさととして親しまれ、寅さんの故郷としても全国に知れ渡っております。

これらが評価され、葛飾柴又は「葛飾柴又の文化的景観」として平成30年2月に国から重要文化的景観に選定されました。これを受け、現在、葛飾区では「葛飾柴又の文化的景観整備計画」の策定を進めています。

今回のワークショップは、葛飾柴又の文化的景観を守り、育んでいくために、地域の皆様に、葛飾柴又に対する思い、イメージ、問題点や課題、まちづくりに対する要望、自分たちでもできるまちづくり活動など、自由に話し合い、回数を重ねながら意見を深め、官民協働で葛飾柴又の文化的景観を守り、育んでいくことを目的としています。

－第1回ワークショップ開催結果のあらまし－

第1回目の目標

葛飾柴又の魅力の再認識するため、皆さんで歴史を振り返り、よい思い出を出し合い、「柴又らしさ」を共有することを目標に進めました。

昔、よく遊んだところ、家族で遊びに行った場所、葛飾柴又の好きなところ、残したい自然や風景、身近な行事・祭り・風習、歴史資源、建物や街並みなどについて話し合っていました。

【プログラム】

1. 開会
2. 葛飾区あいさつ
3. ワークショップの進め方の説明
4. 開催回数等の説明
5. 出席者紹介
6. 意見交換
 - ・参加者の自己紹介
 - ・話し合い
 - ・学識経験者の講評
7. 事務連絡
8. 閉会

【開催概要】

2021年7月7日(水)及び7月10日(土)の2日間で、3グループに分かれて、柴又地区センターで開催されました。

このワークショップについての位置づけなどが説明されたのち、各個人の思いや意見を話し合いその意見を付箋に書いて図面に貼っていきました。

最後に、学識経験者から、参加者から得られた貴重な意見について講評をいただきました。



ワークショップの風景



付箋に意見を書いて地図に貼付

■ 7月7日(第1のリング)

参道の幅員が丁度よく、直線でないところや統一されすぎていない自然な街並みに魅力があると思います。昔の「宵庚申」では露店が立って、多くの人で賑わっていました。近年は寅さんに関連する観光客が主体になっています。現在は夜になると帝釈天が閉まるので、店も閉めています。提灯を統一するなど、夜の景観づくりに努めています。商店どうしのつながりだけでなく、八幡神社の氏子を通して、近隣の農家や住民との深いつながりがあります。

江戸川の土手から見える いらか(葦)の景観も自慢できます。柴又の食文化を担っているという自負があります。

これからも参道にふさわしい景観を維持しながら店舗を継続していくとともに、新規に参入される店舗についても、柴又にあった建物や営業を求めていきたいと思っています。

現在は夜の商売は成立しにくいですが、異なる魅力を発揮するかもしれません。



■ 7月10日午前(第2・第3のリング)

昔は、帝釈天の庭でよく遊びましたが、江戸川の水がきれいで、泳いだり、魚釣りもしました。一面に田や畑が広がっていたので、高砂駅が見えるほど開けていました。その田や畑は減ってしまいましたが、下水道が整備されたことで、水があふれることもなくなりました。

今でも空気がきれいで閑静であり、行事が多く、人情味が豊かで、人とのつながりを大事にする気質があります。

子供達が参道を通ると「お帰り」と声かけをしてくれて、地域全体が家族のように子育てしている環境があります。

新柴又駅ができたことで回遊性も多様になり、観光客に癒しを与えるために柴又植栽事業推進協議会が花を植えています。



■ 7月10日午後(第2・第3のリング)

昔は、帝釈天の庭や池で遊んだり、江戸川で泳いだりしていたので、水泳が得意になりました。とても季節感があり、庚申の縁日が楽しみでした。当時の用水路はドブ川で夏には蚊も発生しましたが、暗渠化されて環境が改善され、水害も減りました。空気がきれいで、土手に上がって夕日を見ると心が落ち着きますし、東京近郊でありながら、田舎とも思えるのんびりした風景は、癒しになります。

また、柴又の人は人情に厚く、人とのつながりを大切にしている点も他の地域にもない良さだと思います。子供たちは安全な帝釈天でよく遊んでいます。大きな通り以外は車の往来が少なく、子供やお年寄りにも安全な道です。桜祭り、寅さん祭り、盆踊りなど、行事が多く、みんなで集まって騒ぐことが好きな土地柄です。

近年、ゴミやタバコのポイ捨て問題があり、残念に思っています。



むかしあったもの、柴又の良いところ

■第1のリング(帝釈天及び参道)

1. よいところ

①参道

- ・参道は広くも狭くもなく、丁度よい
- ・まっすぐでないところが良い
- ・建築年代や高さにはばらつきがあるが、整備されすぎでない良好な雰囲気がある
- ・「門前サミット」に参加して、柴又は生きた参道としてよそにないことを確認した
- ・商店街の中でも同年代が多く、横のつながりが強い
- ・かしこまりすぎず乱暴でもない接客雰囲気が柴又らしい
- ・柴又駅から帝釈天への人の流れが確保されている
- ・子供、高齢者、車椅子の人も安全に通れる

②柴又全体

- ・「カルチャリティ・アイランド(文化的孤島)」のイメージがある
- ・河川敷ではスポーツもできて、来るきっかけが多い
- ・東京と言えども田舎なので、お祭りが多い
- ・江戸川の土手から見えるいらか(薫)の景色は自慢できる
- ・地域全体で子育てしやすい環境と言われている

2. 参道や店舗の特徴

- ・庚申の日や宵庚申には、正月以上に人が集まっていた
- ・昔は露店が出ていて賑やかだった
- ・交通機関が発達したため、宿泊する人が減った
- ・昔は泊まり客が浴衣を着てよるの参道を闊歩していた
- ・信仰の街から観光の街に変化してきている
- ・八幡神社の氏子を通して農家との関係が深い
- ・人や店舗があまり入れ替わらない
- ・一時期、ライトアップやイベントで盛り上がっていた
- ・軒先に照明をつけており、夜のライトアップを撮影に来る人がいる
- ・木造の古い建物なので、かなり維持管理費用がかかる
- ・店舗兼住宅になっており、リフォームする際にも参道にあった形で修繕している
- ・宿泊施設が2箇所できた

■第2・3のリング(帝釈天・参道以外の柴又1・3～7丁目と金町浄水場)

1. 遊んだところ、昔あったもの

- ・帝釈天の渡り廊下や裏の庭・池で自由に遊べた
- ・前夜祭の「宵庚申」の縁日、露店
- ・参道は車や自転車が来ない安全な遊び場
- ・江戸川で水泳、魚釣り、エビ取り、キャッチボール
- ・江戸川の土手のサクラ並木が名物だった
- ・染め物工場が江戸川で布をさらしていた
- ・小川、田が遊び場、釣り堀ができる池がたくさんあった
- ・田園風景が広がり、季節感があった
- ・田園地帯であったため、高砂駅が見えた
- ・水路はドブ川で、夏には蚊が発生した(今は暗渠)
- ・矢切の渡しで自転車を運んでくれたので、対岸の公園で遊んだ

2. よいところ

①参道

- ・店と住民が親しいので、買物しやすい
- ・今でも子供達が通ると声かけしてくれる
- ・子供は参道で遊ぶ方が安全だった

②柴又全体

- ・人情味があって、人のつながりを大切にしている
- ・昔は3代続かないとよそ者扱いされたが、今は新しく入ってきた人にも優しく関わってくれる
- ・農家からコメの作り方を教わった
- ・近所が家族のようなものなので、地域一帯で子育て
- ・水神様があって、水害から守るよう祭られている
- ・祭りが多く、集まって賑やかなことが好きな気質
- ・東京かと思えるほどののどかな景色、空気がおいしい
- ・故郷新潟と似ており「住めば都」
- ・空気がきれい、都会では味わえない良さがある

活かしたいもの、その他

■第1のリング(帝釈天及び参道)

1. 残したいもの

- ・修繕する際に参道の景観を損なわないようにしたい
- ・今後も現状を維持しながら店舗を継続
- ・雁木のイメージを維持していくか、みんなで検討したい
- ・古い物をうまく活用していきたい
- ・新規の店舗にも、柴又にあった建物や営業を求める
- ・川魚、ウナギなど、柴又の食文化を担っている
- ・昔の話を子供達に伝承していきたい

2. 寅さん映画の影響

- ・1970年代の寅さんのイメージが求められる
- ・お客さんの持つ柴又のイメージは、寅さん映画の雰囲気を求めている

3. その他

- ・街並み景観を起爆剤として、盛り上がり確保
- ・建て替え等に支障が出ないよう、特区や条例の検討を
- ・帝釈天が閉まるのが早いので、夜の商売は成立しにくい
- ・夜の参道を活かすことで異なる魅力が出るかも
- ・重要文化的景観に選定されてツアー会社がコースを作成して宣伝になった
- ・人々との付き合いの中心に八幡神社の行事や氏子が機能している
- ・若い人達为中心になって横のつながりを保ってほしい
- ・道路が広がると分断されないか
- ・参道から他の道に抜けられない、緊急車両が入りにくい
- ・参道と住宅地が近接しているので、イベントなどでは周辺に気を遣う必要がある
- ・アパートから戸建てに引越すなど、腰を据えて住む人が増えた

■第2・3のリング(帝釈天・参道以外の柴又1・3～7丁目と金町浄水場)

1. 残したいもの

- ・柴又の文化的景観を隅々にまで浸透させる必要がある
- ・市街化で古いものがなくなったので文化的景観で注目されるのはありがたい
- ・参道が活気づかないと、住民も元気が出ない
- ・江戸川土手ののんびりした風景は癒し
- ・矢切の渡し(行政と連携)
- ・農地(生産緑地)、田園風景
- ・柴又植栽事業推進協議会で花を植えている
- ・寺が多い閑静な環境
- ・地震が来ても頑丈な旧家の良さを大事に
- ・帝釈天だけでなく真勝院も旧家の菩提寺なので注目してほしい
- ・安全で安心して子育てできる環境

2. 寅さん映画の影響

- ・柴又が有名になったのは、寅さん映画から
- ・寅さん映画の前、中(映画上映期)、後(渥美清が亡くなった後)の3つの時代区分があり、映画の前は参道と旧家・農家の付き合いは深かった
- ・声をかけると「やっぱり寅さんの街なんだ」と言う温かい言葉が返ってくる

3. その他

- ・子供は小さい頃「柴又はきれい」と言っていたが、歳を重ねたら柴又が大好きに変わった
- ・寅さん祭りの時だけでも遅くまで店舗を開けてほしい
- ・下水道ができて、安全で衛生的になった
- ・新柴又駅ができたことで、新たな回遊動線を展開
- ・バス停部分を下げるなど、柴又街道整備の見直し
- ・参道だけでなく、周辺の整備も大切
- ・柴又が混雑していると家の前から混雑していて大変だが、コロナで観光客が減ると寂しい
- ・川甚の区への対応はよく考えてゆっくり進めるのがよい
- ・改めるところは改めて、住みよいまちづくりを
- ・盆暮れには柴又に帰郷する人が多い
- ・タバコのポイ捨てが増えるなど、ゴミ問題がある

～ 講 評 ～

■7月7日(水) 第1のリング

伊藤先生：1点目は参道と江戸川の2つの軸が重要で、この2本の軸があることで、参道では皆さんをつなげたり、お客と店をつなげたり、子供が遊べる軸になり、また江戸川では柴又に新鮮な空気を送ったり、空が開けるなど、贅沢な空間軸を形成しています。この2本の軸に皆さんは支えられてきたことがよくわかりました。2点目は住居と店舗がセットになっていて、その生活感が柴又の魅力にもなっています。3点目は参道は一見、バラバラの建築に見えますが、見えないところで守っているルールのようなものが見受けられます。さらに、夜の景観の展開も可能性がありますが、そのためには、もう少し広い範囲である第2・3のリングに目を向けると、柴又の異なる夜の展開も出てくると思います。

初田先生：1点目は参道・門前町のイメージが皆さんで共有されていると感じました。柴又は古い建物が残っているよい景観の地区であると感じています。2点目は以前、露店が並んでいたと聞きましたが、現代に再生できないかと思えますし、参道と農家のつながりも今後活かしていける要素であると思えます。3点目は今回参加していない商店街の人、子育て世代、商店の奥さんにも来てもらおうと、輪が広がって前進していくと思えます。

窪田先生：新規住民や観光客が関わってもらえれば、この街の面白みが続いていくと思えます。

■7月10日(土)午前 第2・3のリング

伊藤先生：今回は女性の参加者も多かったですが、若い人たちの意見も聞きたいと思えます。感想としては、子供の頃に田園風景が広がっていて高砂駅が見えたとか、帝釈天であそんだり、江戸川で泳いだりと、皆さんの思い出が刻み込まれていて宝物だと思えます。次に、寅さん映画の前・中(上映期)・後(渥美清の亡くなった後)で3つに時代区分ができると言うことでしたが、寅さん映画の時代区分と東京の時代区分は重なっており、東京で失われようとしている景観を、柴又は各々の時代で保っていたといえます。また、第2・3のリングが参道を支えているという意識を持つ方が多いと感じました。この意識が続いて、大規模な変化を抑制することが大事です。新柴又駅ができて新たなまちづくりが始まろうとしています。この第2・3のリングへの広がり理想的なまちづくりの将来だと思えます。

福井先生：文化的景観とは街を凍結保存するのではなく、ここで暮らしながら、どうやって良さを引き継いでいくかが議論されていたと思えます。柴又の良い点もお聞きしましたが、普段当たり前にあることをワークショップの場で確認できることは重要な情報であり、重要な機会ですので、共有していくことをお願いしたいと思います。参道を支えてきたのが周辺の地域であることもわかりましたので、今後は新たに入ってきた住民の方の意見も聞きたいと思えます。

■7月10日(土)午後 第2・3のリング

伊藤先生：1点目は「柴又は田舎である」と言うことでしたが、これは「田舎」という言葉をプラスイメージで捉え、今の東京にはない素晴らしい田舎を持っていることだと思えますし、重要なキーワードでもあります。2点目は門前や帝釈天だけでなく、鎮守の八幡神社が重要であることがわかりましたが、これまで文化的景観として十分に拾い出されていませんでした。3点目は女性の出席者が多かったので、子供や孫に至る生活に密着したご意見を伺えました。問題としては、農地をどのように維持管理するか、門前と外側の関係をどのように再構築するか、ゴミ問題をどうするかがありました。

初田先生：1点目は参道の方が思う文化的景観とは異なる風景が見えたことが印象的でした。参道や寅さんより古い旧家があり、水害や生活の風景も見えてきたので、それらも含めた柴又の風景を打ち出していければと思いました。2点目は次回以降なるべく具体的な場所に落とし込んでいけるとよいと思えます。実際の場所をイメージすることで、具体的な話に進んでいくと思えます。

－ワークショップの予定－

第1回：令和3年7月7日、7月10日(今回)

葛飾柴又の「昔の思い出」、「よいところ」を出し合い、みんなで再認識しました。

第2回：令和3年7月下旬(予定)

葛飾柴又の文化的景観について「こうするべきじゃないか」「こうあるべきじゃないか」といった意見を出し合います。日頃お感じになっている問題点・課題点を挙げてください。

第3回：令和3年8月末(予定)

問い合わせ先 葛飾区 教育委員会 郷土と天文の博物館
〒125-0063 葛飾区白鳥3-25-1
電話：(03)3838-1101
FAX：(03)5680-0849

企画・編集：(株)アネトス地域計画

(2) 第2回目

開催日時	① 令和3年7月25日(日) 午前10時から午前11時50分
	② 令和3年7月25日(日) 午後2時から午後3時50分
	③ 令和3年7月27日(火) 午後6時30分から午後7時50分
会場	「柴又学び交流館」地域集会室(葛飾区柴又5-33-8)
参加者	① 第2・第3のリングの方 9名
	② 第2・第3のリングの方 7名
	③ 第1のリングの方 4名 計20名

会議内容

文化的景観やまちづくりについて、普段感じている問題点や課題について意見交換を行った。

第1のリングの方からは、「建物や設備の老朽化が進み、重要な構成要素の維持の問題がある」、「世代交代により新しい人が入ってきたときに、周囲と違う建物になると困る」等の意見が出された。

第2・第3のリングの方からは、「柴又に住むものとしては、農家の方の産品を買うことでつながっており、農地が残ってほしい」、「農家としては、農業では食べていけないという現状があり行政の支援が必要である」、「柴又には、農協、商店街、自治会、PTA、ボランティアグループなどの団体が多くあり、これらの会が集まって文化的景観を継承できる会ができればいい」、「次世代につなげるためにも、かつしか郷土かるたの活用や学校での出前講座が考えられる」、「帝釈天や参道につながる国分道、中通り、帝釈道が交差する地点に柴又を回遊できる道しるべを設置する」等の意見が出された。

「葛飾柴又の文化的景観」 ワークショップ便り

令和3年8月
第2回開催概要

－第2回ワークショップ開催結果のあらまし－

第2回目の目標

第2回ワークショップでは、葛飾柴又の文化的景観整備計画の策定に向け、皆さんが文化的景観やまちづくりについて、普段感じている「こうするべきじゃないか」「こうあるべきじゃないか」と言った問題点や課題を自由に話し合っていました。その中では、これまでになかった具体的な問題や課題に加え、アイデアや文化的景観の広め方や周知についてのご提案やご意見もいただきました。

【プログラム】

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 意見交換
 - ・初参加者の自己紹介
 - ・話し合い
 - ・学識経験者の講評
4. 事務連絡
5. 閉会

【開催概要】

2021年7月25日(日)及び7月27日(火)の2日間で、3グループに分かれて、柴又学び交流館で開催されました。

第1回と同様、各個人の考える問題点、課題、いろいろなご意見・提案を話し合い、その意見を付箋に書いて図面に貼っていきました。

最後に、学識経験者と文化庁から、参加者から得られた貴重な意見について講評をいただきました。



ワークショップの風景



付箋に意見を書いて地図に貼付

－ワークショップのあらましと今後の予定－

第1回：令和3年7月7日、7月10日

葛飾柴又の「昔の思い出」、「よいところ」を出し合い、みんなで再認識しました。

第2回：令和3年7月25日、7月27日（今回）

葛飾柴又の文化的景観について、具体的な問題点や課題を出していただきました。

第3回：令和3年8月26日、29日

■ 7月27日(第1のリング)

門前は昔から仲がよく、仲間意識や連帯感もあって、お互いに「あれはおかしいんじゃないか」などと言い合える間柄ですが、代替わりなどで新しい人が入ってくると、コミュニケーションも変わってくると思います。コロナの影響もあって、面白いこと(イベントなど)はできず、弱気になっている部分もありますが、今が頑張りどころであり、地元とのつながりがあるので、コミュニティとしては心配していません。

代々参道で店を開いているので、参道に合わない変な建物に建て替えたりする人もなく、参道の文化的景観を維持できています。

しかし、建物や設備の老朽化が進んでおり、修繕を必要としています。文化的景観の構成要素と言うことで、修繕の手続きに時間がかかり、手続きの簡素化、修繕や設備投資に対する補助があると助かります。



■ 7月25日午前(第2・第3のリング)

柴又に住む者としては、顔を知っている農家の方の産品を買うことでつながっており、農地が残ってほしいと思います。一方、農家としては、農地を残してほしいという気持ちはよくわかりますが、農業では食べていけないという現状があり、税金面など行政のバックアップが必要です。

柴又街道の拡幅については、街路樹や電柱をなくしたり、車道を少し広げることで対応できるのではないかと思います。

文化的景観を周知するには、広報や地域ボランティアを使った「まち歩き」、寅さん記念館や江戸川土手からのよい景観をビデオライブラリーにして発信することもできると思います。なお、ワークショップはグループを分けずに参加者が皆集まれるような機会があった方がよいと思います。



■ 7月25日午後(第2・第3のリング)

柴又には農協、商店街、自治会、PTA、ボランティアグループなどの団体が多くあり、これらの団体が集まって文化的景観を継承していく会ができれば、地域住民に周知していくことができると思います。柴又で当たり前と思っている文化を次世代に伝えていくために、葛飾郷土カルタの活用や学校での出前講座も考えられます。その他、昔あった桜並木の復活も考えられないかと思います。

柴又の駅前については、広場が通路になってしまって、もう少し作りようがあったのではないかと思います。残念です。

柴又駅に駐輪場ができたことはよいことですが、もう少し大きな駐輪場を近隣にほしいと思います。また、柴又駅近くにある用水路跡の整備活用ができるとよいと考えています。



～各グループのみなさんから出た意見(問題点や課題)など～

第1のリング(帝釈天及び参道)

1. 地域コミュニティや人のつながり

- ・門前は昔から仲がよく、仲間意識や連帯感が強く、信頼関係も厚い
- ・親子代々の間柄であれば「あれはおかしいんじゃないか」と言えるが、新しい人が入って来るとコミュニケーションの方法も変わってくる
- ・代替わりで店を居抜きで貸して違う売り方をされても、商売仲間同士なので「それをやめるように」とは言いにくい
- ・後継者がおらず、閉店する際には、不動産屋よりも前に隣近所に声をかけて空き店舗を使ってもらおうなどのコミュニケーションが必要
- ・このままでは続けていけない店が出るかもしれないが、今が頑張りどころである
- ・昔は庚申の時に生鮮三品を親商会で購入していたが、親商会の商店が飲食店に変化し現在は購入できなくなっている
- ・最近は祭りなども減って派手な付き合いは減ったが、今でも地元の人とのつながりがあるので心配はしていない
- ・どの店でも後継者問題があるが、今はコロナの関係で弱気になっていると思う
- ・以前のような柴又の活気はないが、何か面白いことをしようとしてもコロナの関係でできない状況である
- ・神明会は比較的后継者がいるが、親商会や自治会は厳しい状況にある
- ・文化的景観に選定されているので、建て替えも大変であり、コロナのこともあって、今は消極的になっている
- ・地元の産品を利用しているのでも、農家とのイベントは可能
- ・以前「ブランド委員会」を3商店街で立ち上げたが、商店街の客層の違い(観光客か、地域住民か)でうまくいかなかった
- ・神明会と親商会ではターゲットの客層が異なるので、気持ちは「オール柴又」でも一緒にイベントは難しい

2. 建物の老朽化、建て替え等の問題

- ・参道に何代も住んでいる者は、変な色や形の建物に建て替えるようなことはしない
- ・「い志い」が店舗を改築したが、外形を残したよい改築をしている
- ・建物が50年経過して雨漏りが発生しており、現状を残す上で、助成や手助けがほしい
- ・店舗兼住宅を30年前にリフォームしたが、外壁の汚れやひびが出ており、維持管理が厳しい
- ・トタン屋根の修繕で、許可を得るまでに3ヶ月もかかったので、もう少し許可を簡単にしてほしい
- ・雨漏りのために、戦前から使い続けていたぬか床がダメになり残念に思っている
- ・金銭的な補助があるとよいが、緊急な修繕などに対応できるように、特例を認めるなどの対応してほしい
- ・建物が古くなり、店主も高齢化してきて、コロナの影響もあって、建物を手放してしまわないか不安がある
- ・世代交代で新しい人が入ってきたときに、周囲と違う建物の形になると困る
- ・建物の老朽化や高齢化が進んでおり、世代交代がうまくいかない店も数件出てきており、それに対する指導がほしい
- ・物販の店は什器を前に出したがるが、飲食店は店内にお客を取り込もうとするので、店の並びが凸凹になってくる
- ・什器が老朽化しているので作り直したいが、パイプなら移動も簡単だが、やはり木造で作りたい
- ・危ないと感じる看板があり、維持管理の検討も必要
- ・高齢のお客さんが多いので、エレベーターなどの設備投資もしたいが、今はできない状況

3. その他

- ・8月に神明会の役員会があり、ワークショップで出た話をみんな聞きたがると思う

第2・3のリング(第1のリング以外の柴又1・3丁目と金町浄水場)

1. 農地や旧家・農家の保全

- ・八幡神社の祭りでは農家と地元の人とのつながりがある
- ・農家の方の顔を知っており、地元の野菜を買うことでつながっている
- ・野菜、学校、お祭りにつながることがヒントになる
- ・農家に後継者がなく、高齢化が進んでいることが心配
- ・農地の保存に関して、農業では食べていけないという問題があり、おいしく安全な作物は作りたいが、経済的に成立するかの問題があり、行政のバックアップがないと厳しい
- ・普通に農業を行っても農地は残らないし、屋敷の固定資産税も農地でかせぐこともできない
- ・建物が古くなったが修繕費がかかるので、昔のたたずまいを残すことも難しい
- ・農地を残したいという気持ちはわかるが、メリットよりもデメリットと捉えてしまう

2. 柴又駅前整備、柴又街道の拡幅等

- ・駅前はきれいになったが、雰囲気が変わってしまった
- ・柴又駅前の店舗はもう少し作りようがあったと思えば残念
- ・駅前が狭くなって、通路になってしまった
- ・店舗を広げたので、のんびりした雰囲気がなくなった
- ・自転車利用が増えて、柴又駅に小さい駐輪場ができたのはよいが、近隣に大きい駐輪場があるとよい
- ・柴又街道の歩道を50cmずつ広げ無電柱化したりすれば大型車も通りやすくなる
- ・電柱も文化的景観の一部ではないか
- ・街路樹が基準に合わないなら、花壇にしてはどうか
- ・帝釈天や参道につながる国分道、中通り、帝釈道が交差する地点に柴又を回遊できる道しるべを設置してもらえるとよい
- ・建物を下げて建て替えないといけない場合、門扉や塀がなくなってしまうので、規制の除外が必要
- ・江戸川沿いの防災道路、スーパー堤防の話を確認
- ・柴又駅の用水路を延長して、子供が水遊びをできるようにしては
- ・柴又全体で清掃やゴミ拾いを子供の時から柴又全体で行ってきたようなことを継承するとよい

3. 組織づくり

- ・農協、商店街、自治会、PTA、ボランティアグループが集まって継承していく会を立ち上げ、街の人たちに周知
- ・メリットがあれば柴又の人も協力するし、新規住民、旧家、農家と意見交換すれば、計画や話し合いが進む
- ・リングごとに分かれてワークショップを行うだけではなく、一堂に集まれるような機会を設けるべき
- ・行政には税金や規制などの緩和措置を考えてもらわないといけないが、話し合っていく機会が必要

4. アイデアや提案、その他

- ・柴又で当たり前と感じる文化を次世代に伝えていきたい
- ・大人のスタンプラリー、葛飾郷土カルタ
- ・学校で文化的景観の出前講座を
- ・七福神を広く知ってもらいたい
- ・広報や地域ボランティアを使ったまち歩き
- ・島根県の足立美術館の知ってもらうための取組(年に1回程度無料券を配布等)は参考になる
- ・桜並木を復活させると人の流れも変わるだろう
- ・文化的景観を知らない住民が多いので、説明する資料や行政の周知徹底が必要
- ・寅さん記念館や江戸川土手からの、新旧時代の混ざった景観の良さをビデオライブラリーにしてPR
- ・地方の若い人は寅さんや矢切の渡しを知らない人が多いので、寅さんを文化的景観の中心にするのか議論が必要
- ・コロナで観光客が少ないがゴミやタバコのポイ捨てがある
- ・建物の脇に入ってたばこを吸う人が多い
- ・昔は江戸川の中州に歩いて渡れたことを知ってほしい
- ・堀切地区の計画冊子も柴又の参考になる

■7月27日(火) 第1のリング

初田先生：一点目は、近隣関係の変化(昔は口を出しやすかったが、今は難しくなってきた)がありますので、マナーやルールを明文化する必要があると思いますし、地産地消の考え方が地元と結びつきかけになると思います。2点目は、建て替え等でトタン屋根の改修許可が3ヶ月もかかったなどは、区と商店街の信頼関係にも影響するので、簡単になるとよいと思います。建て替えの機会に、どのようなファサードがよいかモデルを積み重ねていけば、建て替え方法が共有化されると思います。まだ文化財に指定されていない施設や価値あるファサードへの補助もあると思います。

伊藤先生：心に響いたのは「ちょっと変じゃないの」と言い合える感覚が参道の街並みを一定の許容範囲で変化させてきたと言うことです。このような言葉に出さない感覚がみんなの目として働き、柴又の魅力につながっているとわかりました。参道で商売している人は、変な建物を建てることはないで、どこまでが許容範囲かを明瞭化することが文化的景観の一つの仕事だと思います。以前、大和家さんの建物を調査しましたが、貴重で良好な部分を次の時代に残して欲しいと願っています。今はコロナで大変ですが、一段落して、柴又が賑わう姿になることを楽しみにしていますし、今、皆さんと話しているのは、その準備段階になると思います。参道の皆さんの元気が出ないと柴又の魅力が発揮できませんし、第2・3のリングとの役割分担や性格の違いを含めて「オール柴又」とするには、参道の皆さんのリーダーシップが必要だと思います。今日は、建て替え等の問題も出ましたが、私たちもできる限りのことをしていきますし、区でも助成金など、できる限りのことをしてもらえると信じています。

永井調査官(文化庁)：1点目は、地域の課題をひしひしと感じるとともに、皆さんのつながりや培ってきた柴又の当たり前文化が、これからの柴又を切り開く指針になると思いました。今回、修繕のニーズが高いことを知りましたが、法令の課題を整理して、ある程度のルールを作って、文化財の指定や法令の規制を外し、規制緩和しないと修繕できない課題について、議論を始めるきっかけになると思います。2点目は、後継者問題で、古くから住んで、作って、商ってきた歴史と空間が、下町風情や人情味につながっていると思いますが、これが危ぶまれているので、整備計画の策定が、当たり前を明文化し、新たに入ってくる人やご子息と共有化し、引き継いでいくことにつながり、柴又全体に関わる方々の次のアクションにつながるとよいと思います。

■7月25日(日)午前 第2・3のリング

窪田先生：話を伺って農作物を介したつながりやくらしの価値を、今の世代でも魅力として感じている一方、寅さんの知名度が薄れるなか、どうなるのかといった投げかけもありました。道路拡幅や税金など、行政側の状況で守りにくくなっていると感じる部分もあり、行政が問われていると感じました。

伊藤先生：今日の話で農業を維持する大変さを重く受け止めました。外側の人間が農地を残したいといっても、難しいという状況がわかりました。農地は消えてしまえば二度と戻らないので、どうやって残すか、生活を成立させるか、本音で話し合っていたら良かったと思います。アネトスの誘導もよくて、核心に迫った農地や柴又街道の意見も重要な問題として認識されました。また、参道と他の地域を別々のワークショップで開催しているという意見も今後尊重していきたいと思います。行政を突き上げるだけでは地域はよくなりませんので、行政と住民で双方向のやりとりが必要だと思います。提案として、新しく文化的景観について自由に話し合える組織を作り、3代先のことまで考える場として、文化的景観の制度を活用してほしいと思います。懐かしい、かけがえのない日常風景を大切に、生活を成り立たせていくため、住民と行政に託された使命を協働で話し合う場を作っていたらいいと思います。

■7月25日(日)午後 第2・3のリング

福井先生：昭和3年に耕地整理が行われ、網の目のように水路が整備され、それが暗渠化されて道が整備されましたが、水路を歩く道として整備する方法があると感じました。駅前が残念という多くの意見がありました。京成電鉄から駅前整備の話があった際に、委員会でも議論しましたが、このことを重く受け止める必要があると思っています。また、第2・3のリングにも柴又全体を大事に思う人が多く、各グループで行われている活動を知ってもらい、相互につながっていくと活動展開が広がっていくので、委員会でも強く支援していきたいと思っています。

伊藤先生：出生率の低下で、景観は残るが人がいない未来を心配しています。柴又ほど人の風景が残っている地区はありませんが、今後は子供が減ることを踏まえて考え直さないといけないと思います。駅前広場については、私たちにも責任があり重く受け止めました。企業は土地を最大限に使おうとしますが、柴又はそのような生き方をせずに、ゆとりを持たせたことが、駅前広場や桜並木の風景に残っていました。柴又で20世紀型の都市開発を行うと柴又の良さを失ってしまうので、駅前広場はその教訓と言えます。柴又にはいろいろなネットワークやコミュニティがありますので、それを利用して皆さんが話し合う場を文化的景観をキーワードに作っていただきたいと思います。また、「歩く」という言葉が出ましたが、都市は車の論理になったことが柴又街道にも現れています。水路の再生、歩ける道づくりもありましたので、水と散歩と遊歩が一体化した風景が作られるかもしれません。七福神巡りも、遊歩・散歩の拡大版として、新しいパリエーションが生まれるかもしれません。今は3つのリングで構成されていますが、柴又の地名を有する全ての区域を対象とした第4のリングも考えていました。柴又全体で、来街者への対応や生活者に心地よい空間が作れる理想的なまちづくりにつながると思います。

問い合わせ先 葛飾区 教育委員会 郷土と天文の博物館
〒125-0063 葛飾区白鳥3-25-1
電話：(03)3838-1101
FAX：(03)5680-0849

企画・編集：(株)アネトス地域計画

(3) 第3回目

開催日時 ① 令和3年8月26日(木) 午後6時30分から午後7時50分
② 令和3年8月29日(日) 午前10時から午前11時50分
③ 令和3年8月29日(日) 午後2時から午後3時50分

会場 「柴又学び交流館」地域集会室・第四集会室
(葛飾区柴又5-33-8)

参加者 ① 第1のリングの方 2名
② 第2・第3のリングの方 3名
③ 第2・第3のリングの方 5名 計10名

会議内容

これまでの2回のワークショップで出された「柴又の魅力・柴又らしさ」「柴又への思い」「課題」について、文化的景観の保存・活用に向けた取組内容について意見交換を行った。

第1のリングの方からは、「建物の老朽化や防災、耐震上の問題があり、修繕に対する補助制度があるといい」、「修繕等にあたって、区役所に気軽に相談できる窓口があるといい」、「参道の景観保全として「柴又まちなみガイドライン」があるが、紳士協定であり、ある程度幅を持ったルールを行政で作って提示してほしい」等の意見が出された。

第2・第3のリングの方からは、「生垣の維持管理が大変であり、助成制度があるといい」、「柴又街道の拡幅については、あまり拡幅する必要はない」といった一方で「住民の安全が第一優先であり、渋滞解消も必要だ」との意見も出された。

矢切の渡しについては「安全面の対策を講じ、古い雰囲気を残すのがいい」、文化的景観の周知には、「文化的景観ニュースのようなペーパーやスタンプラリーを活用するといい」、文化的景観の組織づくりについては、「地域の代表者だけではなく、第三者的にもものを見ることが出来る人を入れることも大切だ」等の意見が出された。



第3回目ワークショップ

「葛飾柴又の文化的景観」 ワークショップ便り

令和3年8月
第3回開催概要

－第3回ワークショップ開催結果のあらまし－

第3回目の目標

第3回ワークショップ(最終回)では、葛飾柴又の文化的景観整備計画の策定に向け、これまでに開催した2回のワークショップで出された「柴又の魅力・柴又らしさ」「柴又への思い」「課題」についてのご意見をもとに、まとめの会として、文化的景観の保存、活用に向けた取り組み内容について、参加者の皆さんからご意見、ご提案をいただきました。

【プログラム】

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 配布資料の説明
4. 意見交換
 - ・話し合い
 - ・学識経験者の講評
5. 閉会

【開催概要】

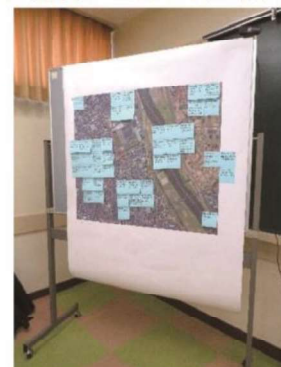
2021年8月26日(木)及び8月29日(日)の2日間で、3グループに分かれて、柴又学び交流館で開催されました。

第1、2回と同様、各個人の考える問題点、課題、いろいろなお意見やご提案を話し合い、その意見を付箋に書いて図面に貼っていきました。

最後に、学識経験者、文化庁、東京都から、参加者から得られた貴重なご意見について講評をいただきました。



ワークショップの風景



付箋に意見を書いて地図に貼付

－ワークショップのあらましと今後の予定－

第1回：令和3年7月7日、7月10日

葛飾柴又の「昔の思い出」、「よいところ」を出し合い、みんなで再認識しました。

第2回：令和3年7月25日、7月27日

葛飾柴又の文化的景観について、具体的な問題点や課題を出していただきました。

第3回：令和3年8月26日、29日(今回)

これまでに示された問題点や課題をもとに、今後の取り組み内容についてご意見をいただきました。

■ 8月26日(第1のリング)

現在の建物は今後も残していきたいと思いますが、建物の老朽化や防災、耐震上の問題があり、修繕に対する補助制度があるとよいと思いますし、修繕等にあたって、区役所に気軽に相談できる相談窓口があるとよいと思います。

参道の景観は「柴又まちなみ景観ガイドライン」で、色彩や素材まで含めた細かい規定を定めており、新しく参入する人も含めて各店舗の皆さんはガイドラインを守っています。

このような取り決めはありますが、紳士協定では限界があるので、ある程度幅を持ったルールを行政で作って提示してほしい。ルールづくりに関しては、参道で反対する人はほとんどいないと思います。

また、江戸川の堤防から見える帝釈天や葺(いらか)の景観を残していきたい。

参道商店街と駅前の商店街や農家とコミュニケーションが取れば、イベントなどで連携できると思います。



■ 8月29日午前(第2・第3のリング)

生垣に関しては、ブロック塀よりもよいと思いますが、日常の手入れや清掃、年2・3回の刈り込みなどの維持管理が大変であり、剪定した枝のゴミ処理、虫の発生などについては、近隣の理解がないと生垣を維持していくのは難しいと思います。

柴又街道の拡幅については、現状のままでもよいという考えもありますが、住民の安全が第一優先であり、渋滞解消も必要だと思います。拡幅した際には、建物などの色彩が大事だと思います。

矢切の渡しについては、整備されすぎるのも問題だと思います。また、松戸側にも目玉になるものがあるとよいと思います。

文化的景観保存のための組織づくりとしては、地域の代表者だけでなく、第三者的にもものを見ることができると入れることも大切だと思います。



■ 8月29日午後(第2・第3のリング)

生垣については、刈り込みが大変で、生垣の下にゴミが捨てられたり、虫が発生する問題もありますが、新築にあたってブロック塀にして、生垣をなくしてしまう敷地が多いのは残念です。生垣の維持管理に関するルールづくりも必要ですし、生垣の設置だけでなく、維持管理に対する助成があるとよいと思います。

柴又街道の拡幅は、あまり拡幅する必要はないという考えと、混雑を考えると、ある程度拡幅は必要という両面があり、また、無電柱化すれば広く感じられるのではないかと思います。拡幅するのであれば、奇抜な建物や近代的すぎる建物が建ち並ぶのは問題だと思います。

矢切の渡しは、安全面の対策を行えば、なるべく古い雰囲気や風情を残した方がよいと思います。

文化的景観の周知には、文化的景観ニュースのようなペーパーやスタンプラリーを活用するとよいと思います。

また、組織づくりについては、一声かければ、商店街や町会の人たちが、集まってくれるので、組織を作る環境はできていると思います。



～各グループのみなさんから出た意見(取り組み内容)など～

第1のリング(帝釈天及び参道)

1. 建物の保存、維持管理と補助・助成制度

- ・今の建物は残していきたいが、利益率が下がっているため、効率性を重視した建物にしたいという思いはある。
- ・老朽化のため、消防署から毎年修繕指示が来ている。建替えという思いもあるが、残していくつもりである。
- ・2戸1の建物は、隣と残が合わないと修繕が難しい。
- ・プラスチックの樋よりは、瓦や銅の樋を残してもらいたい。
- ・コロナ禍による資金不足で直したくてもなかなか直せない。
- ・屋根の葺き替えや塗装、外壁の塗装、木造の腐食部分の修繕、耐震補強等を隠す格子の修繕、看板の修繕に対しての補助金を検討してもらいたい。
- ・耐震補強などは、改修時にしっかり対策する必要がある。
- ・木造で残す以上、火災報知器を設置してもらいたい。
- ・参道に消火器を置いているが、各店舗にも設置を求めたい。

2. 現在の建物の重要な部分

- ・間口が狭くて中が広い木造2階の建物など、建物としての格式を残していきたい。
- ・木造の建物の外壁が重要だと思う。
- ・参道に対して屋根の妻側と軒側のどちらが向いている方がいいかなども考える必要があると思う。
- ・柴又景観ガイドラインで色彩や素材まで決めており、皆さん守っている。色彩は和風の色で認識されており、新しく入ってくる人も守ってくれている。
- ・建物を修繕する時は、軒や庇を全部取ることはせず、庇の骨だけでも残すことを求めているが、区からは、道幅が狭くなると緊急車両が通れなくなるので、それを明文化することはできないと言われた。
- ・看板は、蛍光灯よりも木の看板で下から照明を当てる方式がよく、皆さん共通認識を持っている。

3. 補助・助成制度の周知方法、手続きの簡素化

- ・制度の周知で、パンフレットなどはあまり読まない。それよりも一つの事例ができれば口コミで広がっていく。
- ・パンフレットは、文字より写真やイラスト主体が良い。
- ・区の建築課と建築屋さんの協議がスムーズに進むようにしてもらいたいし、気軽に相談できる窓口がほしい。
- ・自分が修繕したいことと異なる指導をされると、そこで止まってしまう。

4. 景観の継承

- ・柴又に来た人は昭和や寅さんのイメージで捉えているので、今の外観を含め昭和的な雰囲気を残していきたい。
- ・大正から昭和初期の建物がほとんどなので、大正から昭和にかけての街並みがよいと思う。
- ・江戸川の堤防から見た帝釈天や葎が見える景観を残したい。
- ・周りの店が近代的になった時に自分の店だけが古い状態のままのような状況は避けたい。
- ・良いものを隠している建物があり、隠さない方が昭和の雰囲気が出る建物も数件ある。
- ・参道が栄えると巣鴨のようにコンビニやドラックストアが必要になってくる。チェーン店は色彩等を合わせるが、その程度では、景観が崩れるのではないかと危惧している。
- ・「川千家」や「い志い」などの良い建物を説明するプレートができるとよい。

4. 地区計画などルール化

- ・参道店舗は、隣近所で直接注意はできないので、行政がルールを決めた方がよい。
- ・店の通りへの出方も取り決めがあるが、徐々に出てきている。紳士協定では無理なので行政の指導がほしい。
- ・看板の素材をルール化した方がよいのではないかなと思う。
- ・ルールは、あまり厳しいと守らない人が出てきてしまうと思うので、ある程度幅のあるルールの方がよいと思う。
- ・理由を説明すれば、多くの方は賛成してくれると思う。
- ・観光客にとっては、ここが参道、ここが神明会と言うことは関係ないので、柴又全体で進めていきたい。
- ・農家、参道商店街、駅前商店街でコミュニケーションができれば、イベント時等も連携できると思う。

第2・3のリング(第1のリング以外の柴又1・3丁～7丁目と金町浄水場)

1. 生垣などの緑

- ・リフォームで生垣を一部残してブロック塀にしたが、生垣の掃除等の維持管理を怠るとゴミが捨てられたり、蜂の巣や虫が発生する。
- ・生垣を整備した人から「虫がひどくて失敗した」と聞いた。
- ・今後、生垣を含め屋敷をどうするかについては、次の代の者と話し合わないと難しい。
- ・高齢化すると生垣の維持管理が難しいので、生垣の維持には金銭的支援だけでなく、近隣の協力やルールが必要。
- ・地震時の転倒を防ぐため石垣を生垣に変えた。
- ・生垣の維持は、今は自分でできるが、肉体的な負担もある。植木屋さんに声をかける必要も出てくると思う。
- ・刈り込みにより出る大量のゴミ処理が難しい。
- ・風通しが良いので生垣が一番だと考えている。
- ・建て売り住宅を作る際、生垣をなくしてしまうのが残念。
- ・既存のブロック塀を生垣に変更する場合には、ブロックを2段か3段までにし、後は生垣にするとよいのではないかな。
- ・分譲住宅では、ブロックを3・4段にして、その上をフェンスにしているが、防犯上の見通しや風通しもよい。
- ・ルールがないと、管理が楽なブロック塀になってしまう。
- ・維持管理について支援があるとよいだろう。
- ・キンモクセイの匂い、サクラにつく虫、落ち葉など近隣の問題も解決していかないと難しいと思う。

2. 柴又街道の拡幅

- ・柴又街道は広げずに、今のままでよいのではないかな。
- ・拡幅が必要という意見と必要ではないという意見があるが、拡幅した場合、変わった建物や近代的な建物が建ち並ばないようにすべき。
- ・別の場所だが、以前拡幅すると言うので建物を後ろに下げて建てたが、拡幅事業そのものがなくなってしまった。
- ・車の交通量が増えるなら、広げない方がいいのではないかな。
- ・柴又街道の拡幅も、早くから少しずつ始めたり、新築の建物では下がってもらえればよかったと思う。
- ・住民の安全が第一優先であり、災害が発生したときに活かされるので、拡幅は必要であると思えている。
- ・無電柱化すれば広く感じるようになるだろう。
- ・昔、紅葉の時期は街路樹のイチョウがきれいだった。

3. 矢切の渡し整備

- ・矢切の渡しを渡る人は、憧れを持ってきているので、保存してほしい。矢切の渡しまでの道の整備が必要。
- ・松戸側にも目玉になるものがあつたらよいと思う。
- ・船頭さんと話し合せて、転落防止等の安全を確保しながら、古い雰囲気や風情を残した整備をしてほしい。

4. 文化的景観のPRや周知

- ・もっとマスコミを利用して、PRしていくとよいと思う。
- ・柴又独自の方式としてブロック塀の1列をカラーにしている。
- ・寅さんフェスティバルに一人でも多くの寅さんに来てもらえれば盛り上がると思う。ウィーンから来ている人もいた。
- ・味わいのある道しるべや説明する案内板があるとよい。
- ・文化的景観ニュースのようなペーパーを設置したり、スマホをかざすと案内が表示されるシステムがあるとよい。
- ・知っているようで知らないの、地元の人も柴又を勉強する必要がある。
- ・以前行っていたスタンプラリーができるとすばらしい。

5. 組織づくり

- ・組織作りの際、参道の方や寺、知名度の高い方だけでなく、第三者的に見ることが出来る人を入れることが必要。
- ・商店街との連携や神明会、中央会、親商会の代表者にワークショップで話してもらえるとよいと思った。
- ・一声かければ、商店街や町会から人が集まってくれる。

6. その他

- ・サザエさんで有名な桜新町を見て色彩は大事だと感じた。
- ・昔のイメージをそのまま残していった方がよいと思う。
- ・駅前に水路が残っているが、そのような所をもう少し整備したらよいのではないかな。
- ・農家が徐々になくなり、相続税の関係もあるかもしれないが、ある程度空き地を残してもらえるとありがたい。

～ 講 評 ～

■8月26日(木) 第1のリング

窪田先生：柴又の皆さんは、行政が入り込んでくることに抵抗感があり、文化的景観を進めるときにも自分たちで行うが、必要があれば行政に手伝ってもらおうという感じではないかと思っていました。今日のお話を聞くと、隣近所で厳しいことは言いにくいこともあるので、行政から言ってほしいといった感じでしょうか。

▶ワークショップ参加者：神明会に関しては、抵抗感はないと感じています。

窪田先生：これをみんなで守ろうと言うことについては、明瞭にルールを決めるが、グレーゾーンについては気軽に相談できる場所があるとよいという理解でよいでしょうか。

▶ワークショップ参加者：そうしてほしいと思います。

伊藤先生：今日、参加された方のご意見を尊重したいと思います。それに合う形で私たちはサポートしていきたいと思ひますし、行政も意向をくんで施策を展開していくことになると思ひます。今日、出てきたルール（柴又まちなみ景観ガイドライン）をベースにして、次のルールづくりを行うことになると思ひます。話の中で重要な指摘として、一つ目は、ルールを行政がきちんと作った方がよいということ。二つ目は、何を守るべきかで、大正・昭和の強いて言えば寅さんの時代の柴又がみなさんが共有する価値観ですので、そこをベースにしていく必要があると思ひます。三つ目は、いくら街並みとして保存されても、防災や耐震、水害の問題がフォローされていないと意味がないので、防災対策をベースに持った上で、文化的景観であることを考えていかなければいけないと思ひます。特に外壁と屋根は、街全体に関わる問題ですので、助成を行ってよいと思ひました。防火・準防火地域の指定による制限などは、スプリンクラー等で緩和できることもありますので、建築の具体的なセクションと相談しながら進めてほしいと思ひます。最後に、参道だけでなく、周りの農家や駅前の商店街とのネットワークが重要で、参道が活き活きと残り、周りの第2、第3のリングと有機的につながっていくことで、柴又の魅力が増していくと思ひますので、そのためにも参道の人たちのリーダーシップが重要であると思ひます。

永井調査官(文化庁)：今回は、修理や修景に加えて、消防設備や耐震対策工事についても必要だという意見が出されました。これらは建物を保存する上で不可欠なもので、国からの財政的な支援も制度上可能となっています。ニーズに対応するためにも、修理に当たって必要となる地区計画などのルールづくりも含めて、前に進めていきたいと思います。一方で、地域の阿吽(あうん)の呼吸で円滑に回ってきたコミュニティや商いの作法については、今後、チェーン店などの地域外からの店舗が入ってくることも想定しながら、紳士協定のような緩やかな形で明文化し、伝え広めていくことが望ましいと感じます。ハードとソフト、両面の特徴が継承されることで、人情味や下町情緒と語られる葛飾柴又の魅力が広がっていくことを期待しています。参道とその周辺についても、交流や経済などのつながりが語られましたが、一体的な地域としての活性化のあり方について、整備計画に方向性がまとめられるとよいと思ひます。

鈴木課長代理(都)：「神明会でルールづくりをしても反対する人はいない」という話から、この地域のまとまりの良さを強く認識しました。防災については、ここが文化的景観区域でなくても、安心、安全な暮らしが皆さんの願いだと思ひます。地域の特色は、大正から昭和を彷彿させる地域だと思ひますので、皆さんでルールづくりをされるのが指標になると思ひます。木造のよい外観があるのに隠している建物があるという話をお聞きし、表に現れたらこのような景観になるというビジョンが描ければよいと思ひました。

～ 講 評 ～

■8月29日(日)午前 第2・3のリング

福井先生：「柴又は田舎だ」と言われていましたが、柴又は圧倒的に都会であると言えます。柴又は大勢の人がいて、それぞれの人が柴又を大事に思っています。ここまで培った柴又の営みや良さを引き継いできたことを、今後、何に反映させていくのか議論していく必要があります。大事なことは、このような話をする人材や価値を共有する人が集まって議論する場を確保することです。今回は第2・3のリングの方が、柴又をどうするかという話を始められたことに意義があると思います。柴又街道の拡幅も、このまま放っておくとどのような姿になるかを予測して議論しないといけないと思います。都の計画では、道路の幅員が変わっても、車線数は変わらず、電線が地中化され、自転車通行帯が車道側に確保されます。区と都で話し合い、皆さんとともに、これが本当に望む姿なのか、3代先の子供たちに引き継いでいけるのかを考える必要があると思います。矢切の渡しの船着き場周辺の整備も、住民や利用者がどのような体験をするのかを考え、地域にとって大事な場所であることを形に反映させなければなりません。生垣の維持については、風情を残す点ではよいと思いますが、実際に所持して管理される方がどんなに苦労されているかよくわかりました。千葉県流山市では、グリーンチェーン認定制度があり、住宅を緑化すると地元の金融機関からお金を借りるときに金利が少し安くなる制度があります。旧家の方だけに負担がかかるのではなく、地域全体で環境をよくしていくため、文化的景観を越えた議論が大切だと思います。

伊藤先生：柴又の景観は「関係のデザイン」があると思います。例えば、生垣は個人の家と地域との関係になります。個人で維持管理しますが、それによって地域の道の景観などを考えていくことになります。柴又街道は都道ですが、参道だけでなく、第2・3のリングにも影響を与えます。柴又の中で、第1のリングから第2・3のリングへ、どのように関係を結ぶかデザインする必要があります。そして、矢切の渡しは柴又と江戸川を超えた松戸との関係になり、柴又と外部との関係の関係になります。さらに寅さんは柴又と全国・全世界との関係になります。このようなスケールごとの関係を考えていくことが、今日の話題に含まれていたと思います。文化的景観は規制もありますが、チャンスでもあります。柴又が国の重要文化的景観に選定されたことを最大のメリットと考え、マイナス面を捉えずに、プラス面を考える必要があります。文化的景観を積極的に使っていただきたいと思いますが、「私たちが住んでいるまちはどのような街なのか」がよくわからないのではないかと思います。帝釈天、参道、寅さんはわかりやすいですが、第2・3のリングはどのような場所かは、わかりにくいと思います。ヨーロッパでは建物に小さな鉄の板を張って、どのような建物なのか書かれていて、それを読むとどのような街かわかってきます。道しるべもたくさん書かれていて、観光客も道しるべを読めば理解できます。日本の街ではあまりありませんが、柴又の参道に行けば、川千家は昔からある料理屋だとか、大正時代の建物だとか、昔は用水路があったとか、読み解いていくことで場所がわかり、魅力を感じることができるようになります。文化的景観は、自分の街の歴史を知ることでもあり、それを外部に向かって発信する場所になりますが、それができる街はあまりありません。伝統的建造物群保存地区や街並み保存が行われている地区ならできますが、そのようなものがない地区は普通の住宅街であり、その点で柴又はメリットを持っています。私たちも微力を尽くしたいと思いますので、オール柴又で、世界の寅さんを集めてもよいと思いますし、そのような取り組みを徐々に立ち上げていけたらと思います。

永井調査官(文化庁)：本日お話に上がった生垣については、皆様が大切に思う気持ちが伝わる一方、維持管理に労力も金銭的な負担もかかるとともに、都市にあって近隣の住民の理解が得られないなど、大変なご苦労があることがわかりました。同じような悩みを抱えた世田谷のある地域では、都会の中の土やみどりを大切に思う住民が会を作り、素敵な大木や生垣を地域の方々が共有し、所有者に賞を贈呈して讃えたり、落ち葉の清掃を行う活動を続けています。制度や資金で解決するのは難しい問題を、地域のコミュニティで解決していこうという事例です。また、柴又らしい意見として、江戸川の対岸や「寅さん」に扮した全国の人々との連携のアイデアも出されました。全国の寅さんを観光大使にして情報発信を行うこともユニークですが、皆様方のお話が大変面白く、もっと聞きたい、知りたいという気持ちになりました。地域の皆様方が、「寅さん」や「さくら」として、語り部になったり、新しい住民の方などを含めた交流の場のキーパーソンとして地域に関わってくださるとどんなに魅力的だろうと思いました。また、商店街との連携は、柴又全体の活性化につながる可能性があると感じています。第2・3リングにお住まいの皆様から、ラブコールを送られてみてはいかがでしょうか。

鈴木課長代理(都)：話を伺って強く感じたのは、皆さんは柴又の風景が好きで、それを心で共有されているということでした。今の風景をあまり変えずに、生活が安全になり、生垣なども一人に負担があまりかからないような地域で負担するルールができれば、今の風景をあまり変えずに住み続けられると思いました。それをめざして、ルールづくりのお手伝いなどに積極的に参加していければと思います。

■8月29日(日)午後 第2・3のリング

初田先生：1点目は生垣についてです。以前に伊藤先生と私で調査をしたときに柴又の文化的景観の魅力の一つは生垣にあると感じました。柴又の文化的景観を考える場合、河川敷の上から全体を見下ろしたときに、建て売りだらけの緑のない街になってしまうと柴又の魅力が欠けてしまうと思いましたが、その時に魅力として発見したのが生垣でした。生垣だけでなく、門構えや石塀などの境界装置、盛り土にも魅力があります。一番手前生垣があり、その奥の庭に植栽があり、その奥に建物が控えているというように、3段階で景観が構成されており、空の広さが担保されていると思います。かつては隣人関係も余裕があって生垣のメンテナンスが行われていたと思いますが、高齢化が進み、近隣に迷惑をかけないという思考に変化して来ていると思います。一方で、生垣を残したいという気持ちもあり、生垣を残すのが街のためにもなるし、行政の補助などにより行政も民間もWin-Winの関係になるように対応すべきと思いました。2点目は今後のまちづくりの周知のあり方です。とくに柴又街道の拡幅はかなり大きな変化があると思います。道路が広がると分断されたり、前面道路が広がって高い建物が建てやすくなるので、街並みが大きく変わってしまう可能性があります。今日、参加された皆さんは、まちづくりに意識のある方なので、今後もまちづくりを考えてほしいと思います。一方でワークショップに来ていない人や新しく街に来た人にとっても自分たちの問題として意識してもらえれば重要で、そのためには文化的景観に選定されたことを周知のためのツールとして利用してもらえればと思います。

伊藤先生：第1・2回のお話を聞いて驚いたのは、「田舎」と言う言葉をプラスに捉えていることです。かつては田舎という言葉ポジティブに語っていませんでしたが、今になって希少価値として意識されていると思いました。川添登さんが「東京の原風景」という本の中で、東京は武家屋敷が多いので緑が多いと書いています。東京の原風景は庭園都市みたいなもので、植木屋さんがたくさんいましたが、関東大震災で、植木屋さんが埼玉に移って盆栽村を作りました。植木屋さんが街中にいれば生垣や庭の維持管理などで街と関係があり、昔は植木屋さんが一人いれば、いろいろな家の仕事で生計が成り立ちましたし、比較的安いコストでしたが、今はすごく高くなったので、結局個人で行っています。生垣を維持管理する場合、住民にお任せするのは酷であると思います。行政と住民が協働で植木を管理する体制を作れば、若い人で興味を示す人もいると思います。生垣は敷地の境界にあたるので、パブリックとプライベートの境界になります。ここにブロック塀が建つと敷地境界線が明確になりますが、生垣ははみ出たりするので公と私の間があいまいになります。「公」と「私」の間に「共」という概念があって、それが生垣であり、コミュニティを作っていく装置として考えることもできます。柴又では生垣をどのように維持していくかが、コミュニティにも影響を与えていると思いますので、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。2点目は柴又街道で、広い道路を通して両側に街路樹を植えるのはパリで始まった19～20世紀の作り方です。柴又街道は戦後の道路ですが、古いタイプの道路を作ると、広い道路、街路樹になります。トヨタは「車ではなく、まちづくりだ」と言うことで「コネクティッド・シティ」を考えていますし、車のない時代がやってくると言うことで、人と自転車、特にコロナ禍は自転車が非常に重要になります。それが受け入れられる道路を作っていく必要がありますが、今の道路はアイデアが貧困です。参道は大きな影響を受けませんが、21世紀型の街中を通る道路をどうするか、無電柱化の話やいろいろな可能性があるテーマですので、まちづくりの一環として考えてもらいたいと思います。3点目は、矢切の渡しで、柴又にとって大変大事な要素です。柴又は帝釈天の門前の街と農村的な風景と港(川の渡し)を持っていますが、柴又は都市と農村と港を備えた大変まれな例です。矢切の渡しをうまく位置づけてほしいと思います。4点目は回遊性が足りないことで、どうしても帝釈天と参道が中心になってしまいます。今日のアイデアを利用すれば柴又全体の回遊性のヒントが隠されていると思います。「プライド オブ プレイス」(自分たちの住む場所をプライドを持って作る)が、文化的景観の重要なテーマになり、回遊性をもたらすと思います。その際、ヒントになるのが祭りで、かつては祭りを通して地域の歴史や人を子供たちに伝えていました。今はなくなってしまいましたが、祭り、イベントは地域の歴史を伝える大きな装置になりますので、活かしてほしいと思います。今、若い方は、インスタ映えする場所に飢えていると思いますので、柴又はその可能性があるのも、アイデアを出すなど、まちづくりに協力していきたいと思っています。

永井調査官(文化庁)：皆様が心から柴又を愛しているということが、良く伝わりました。また、御自身や町内会で掃除を続けてこられたことに敬意を表したいと思います。柴又の良いところは、声をかければ町内会を始め、皆が温かい気持ちで集まってきてくれるし、これからもそうしていきたいというお言葉を、未来につながる大切な言葉として受け取りました。参道沿いの第1のリングのワークショップでも、参道のコミュニティや高いのルールを言語化して、柴又で新しく商売を行う人に伝えていくことの大切さが共有されていました。第2・3リングでも、柴又を愛している方が集って、文化やコミュニティ、思いを発信していくことが、子どもたちや新しく住まわれる方などに思いをつなげる第一歩になると思います。文化的景観を守り、活かしていく主役は地域の皆様ですので、その取り組みのお手伝いをしていきたいと思っています。例えば、案内板設置、パンフレットやお便りの作成、勉強会やスタンプラリーの開催など、皆様の声や活動を支援する仕組みを、葛飾区を中心に実践できればよいと思います。地域の魅力を共有し、みんなで支え合うアクションにつながる文化的景観の整備計画がとりまとめられることを期待しています。

鈴木課長代理(都)：いろいろなご意見の中で面白いと思ったことは、生垣の管理は大変であるという認識は同じですが、ブロック塀も色を統一すると言うご意見がありました。生垣に対するお助けルールのようなものを作っていくと同時に、皆さんに邪魔にされがちなブロック塀についてもルールを作れば、生垣からブロック塀に変えた方や新しく入ってくる人も参加しやすいと思います。地域づくりとして、みんなで集まれる場があるとよいと言う話が多く、スタンプラリーと学習の場を併せて広がり出るようにすることもよいと思います。皆さんの話を聞いているといろいろなアイデアが出てくるので、このような集まりを継続的に続けていっていただければと思います。行政としてもサポートしていきたいと思っています。

問い合わせ先 葛飾区 教育委員会 郷土と天文の博物館
〒125-0063 葛飾区白鳥3-25-1
電話：(03) 3838-1101
FAX：(03) 5680-0849

企画・編集：(株)アネトス地域計画

アンケート調査結果概要

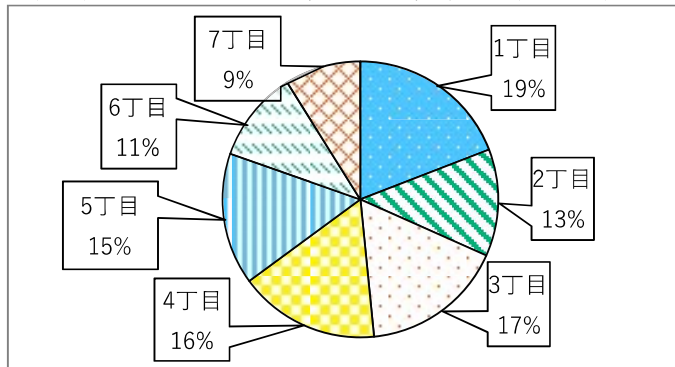
(1) 目的

『葛飾柴又の文化的景観整備計画(仮称)』策定に向けて、具体的な計画の立案のため、国重要文化的景観の選定を受けている柴又という地域に対して、柴又地域住民がどのような思いを抱いているのか意識調査を行い、令和2年度に実施した個別ヒアリング及び令和3年度に実施した3回のワークショップを通して、課題を抽出整理して整備計画に反映させることを目的とする。

(2) アンケート調査の実施方法

- ・調査期間：令和3年8月15日～31日
- ・調査対象：1,000人（住民基本台帳から柴又1～7丁目の住民を無作為抽出）
- ・配布方法：郵送配布
- ・郵送回収：391部（回収率39.1%）

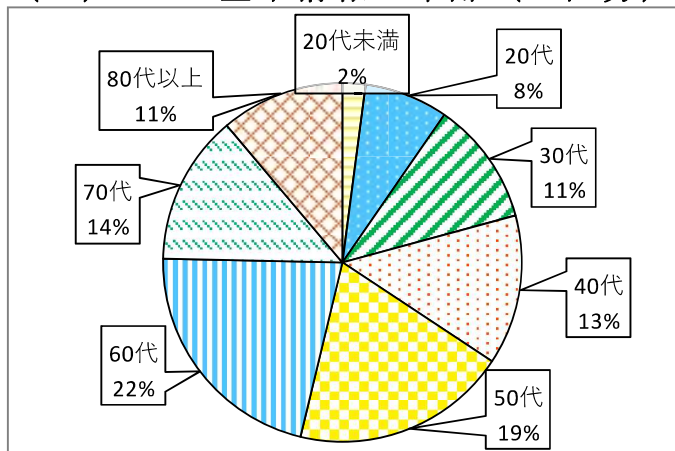
(3) - 1. 基本情報 住所（丁目）



住所（丁目）	回答数	割合
1丁目	73	19%
2丁目	48	13%
3丁目	64	17%
4丁目	63	16%
5丁目	59	15%
6丁目	41	11%
7丁目	34	9%
計	382	100%

地区内の世帯数のバランスにもよるが、「1丁目」（19%）が一番多く、次いで「3丁目」（17%）、「4丁目」（16%）と続き、「5丁目」（15%）、「2丁目」（13%）、「7丁目」（9%）と、地区内の全体から回答を得ている。

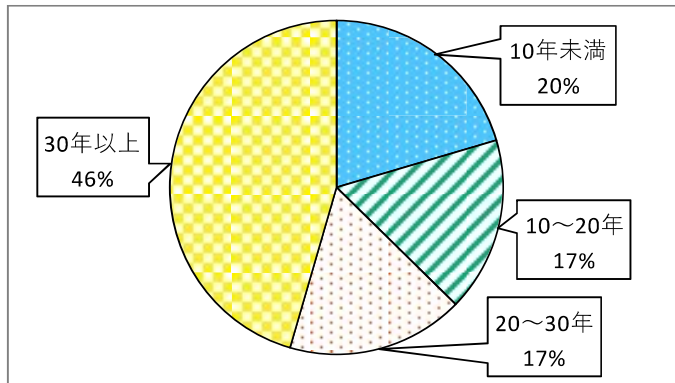
(3) - 2. 基本情報 年齢（8区分）



年齢区分	回答数	割合
20代未満	8	2%
20代	29	8%
30代	43	11%
40代	52	13%
50代	75	19%
60代	83	22%
70代	52	14%
80代以上	43	11%
計	385	100%

回答者全体で見ると、年齢区分としては「60代」（22%）、「50代」（19%）が多く、次いで「70代」（14%）、「40代」（13%）と続く。若年層の回答率が低い傾向となった。

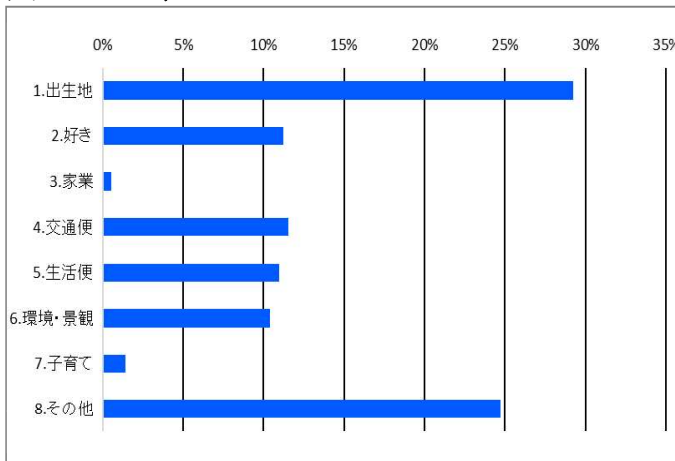
(3) - 3. 基本情報 居住歴



居住歴	回答数	割合
10年未満	75	20%
10～20年	62	17%
20～30年	64	17%
30年以上	168	46%
計	369	100%

「30年以上」（46%）が最も多い。続いて「10年未満」（20%）、続いて「10～20年」（17%）と「20年～30年」（17%）が同率の結果になった。

問 1. お住まいの主な理由

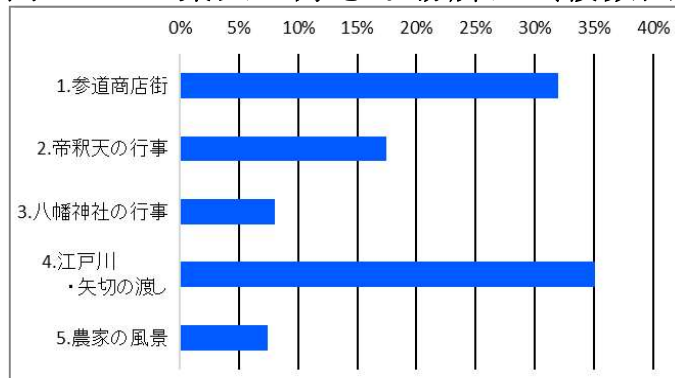


住まいの理由	回答数	割合
1. 出生地	103	29%
2. 柴又が好き	39	11%
3. 家業を継ぐ	2	1%
4. 交通の便	42	12%
5. 生活の便	39	11%
6. 環境や景観	37	10%
7. 子育て	5	1%
8. その他	88	25%
計	355	100%

「1. 生まれたところだから」（29%）が最も多い。次に「8. その他」（25%）、内容はほとんどが「婚姻」、「4. 交通の便が良いから」（12%）、「5. 生活の便が良いから」（11%）、「2. 柴又が好きだから」（11%）、「6. 環境や景観が良いから」（10%）と続く。

生まれ故郷や婚姻で住んでいる人が多い中、生活環境や景観が良いことを住む理由とした回答も見られた。

問 2 - 1. 柴又の好きな場所は（複数回答あり）

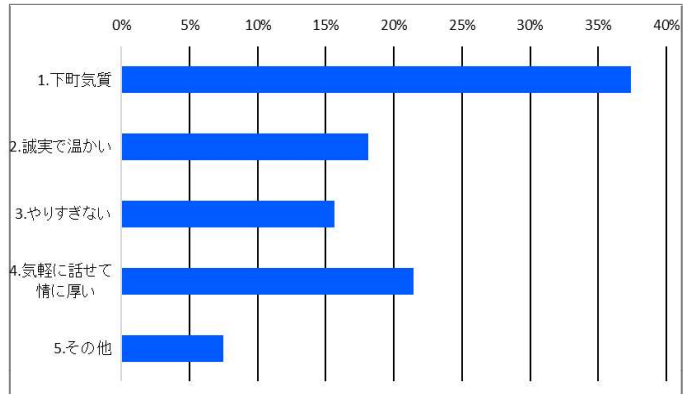


好きな場所	回答数	割合
1. 参道商店街	274	32%
2. 帝釈天の行事	150	18%
3. 八幡神社の行事	69	8%
4. 江戸川・矢切の渡し	301	35%
5. 農家の風景	64	7%
計	858	100%

「4. 江戸川沿いの豊かな自然環境、矢切の渡し」(35%)が最も多い。次に「1. 参道商店街」(32%)、次に「2. 帝釈天の行事(18%)」が続く。

江戸川や参道商店街への意識が高い。

問2-2. 柴又に住む人の魅力は(複数回答あり)

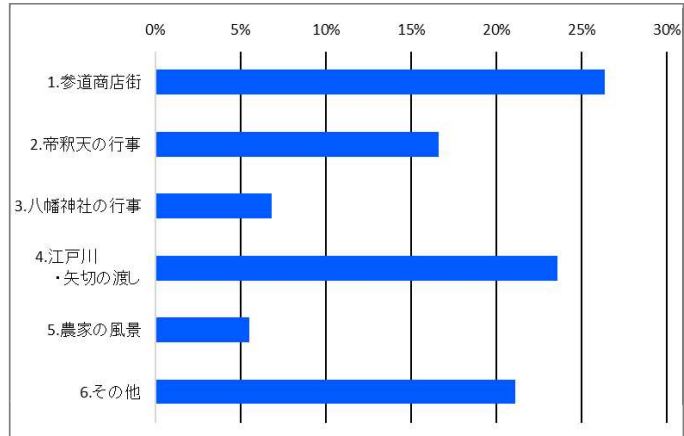


人の魅力	回答数	割合
1. 下町気質	225	38%
2. 誠実で温かい	109	18%
3. やりすぎない	94	16%
4. 気軽に話せて情に厚い	129	21%
5. その他	45	7%
計	602	100%

「1. 人情味のある下町気質」が最も多い(38%)。次に「4. 気軽に話しやすく情に厚い」(21%)、次に「2. 誠実で温かい」(18%)が続く。

「下町気質」、「情に厚い」、「誠実で温かい」といった意識が高い。

問2-3. あなたにとって柴又らしさとは(複数回答あり)

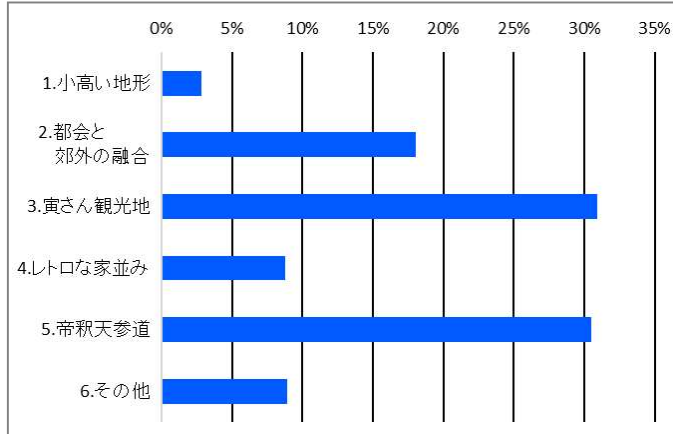


柴又らしさ	回答数	割合
1. 参道商店街	322	26%
2. 帝釈天の行事	203	17%
3. 八幡神社の行事	83	7%
4. 江戸川・矢切の渡し	288	24%
5. 農家の風景	67	5%
6. その他	258	21%
計	1,221	100%

「1. 帝釈天参道としての商店街」(26%)が最も多い。次に「4. 江戸川沿いの豊かな自然環境、矢切の渡し」(24%)、次に「6. その他」(21%)、内容は寅さん、観光地など。

参道と江戸川河川敷への意識が高い。

問 2-4. あなたにとって柴又はどんな場所（複数回答あり）

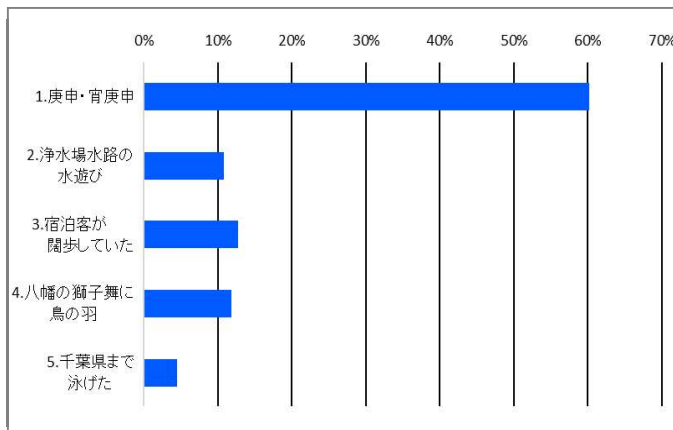


どんな場所	回答数	割合
1. 小高い地形	27	3%
2. 都会と郊外の融合	173	18%
3. 寅さん観光地	297	31%
4. レトロな家並み	84	9%
5. 帝釈天参道	293	30%
6. その他	86	9%
計	960	100%

・「3. 映画「寅さん」で有名な観光地」（31%）が最も多い。続いて「5. 帝釈天題経寺と参道（観光）のまち」（30%）、次に「2. 都会と郊外（いなか）の文化の融合」（18%）が続く。

寅さんと参道の観光イメージのほか、都会と郊外（いなか）の融合との意識も高い。

問 2-5. どのくらい知っていますか（複数回答あり）

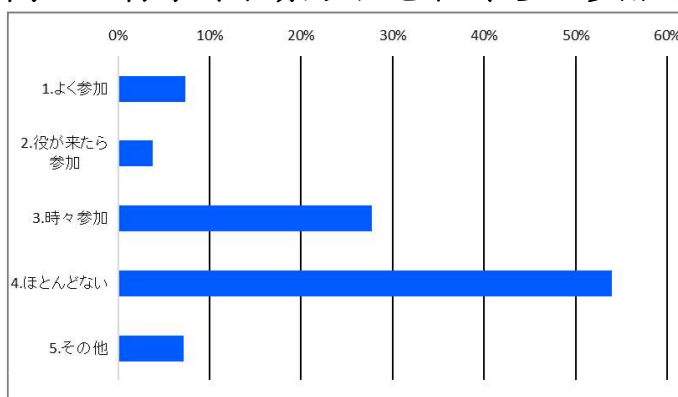


知っていること	回答数	割合
1. 庚申・宵庚申	284	60%
2. 浄水場水路の水遊び	51	11%
3. 宿泊客が闊歩していた	60	13%
4. 八幡の獅子舞に鳥の羽	56	12%
5. 千葉県まで泳げた	21	4%
計	472	100%

「1. 庚申や宵庚申では露店が出てにぎわった」（60%）が最も多い。あとの3つは、回答が少なく同率に近い。「2. 昔は金町浄水場から流れ出るきれいな水路で魚と一緒に水遊びできた」（11%）、「3. 昔は料亭に宿泊出来て、夜は浴衣を着た客が参道を闊歩していた」（13%）、「4. 八幡神社の獅子舞には鳥の羽が付いている」（12%）、「千葉県まで泳げた」（4%）ことを知っていた人はごく少数であった。

庚申・宵庚申への記憶が根付いている。

問 3. 行事やお祭りにどれくらい参加している

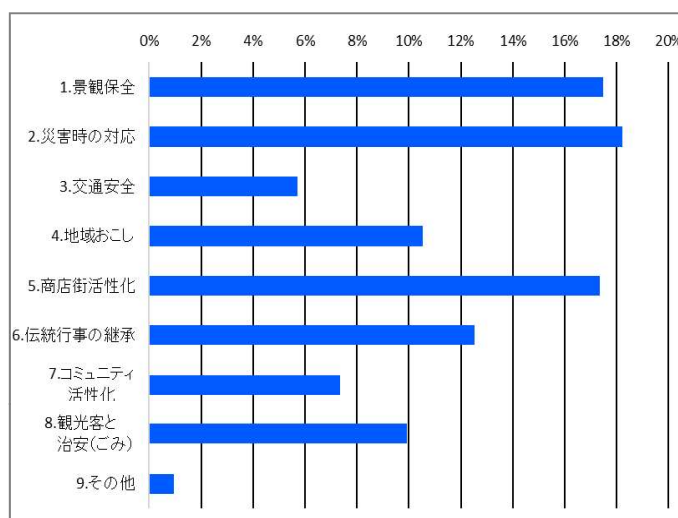


行事参加度	回答数	割合
1. よく参加	29	7%
2. 役が来たら参加	15	4%
3. 時々参加	109	28%
4. ほとんどない	212	54%
5. その他	28	7%
計	393	100%

「4. ほとんど参加していない」(54%)が最も多い。次に「3. 時々参加」(28%)が多い。「1. よく参加している」はごく少数(7%)

行事への参加度が著しく低い。

問 4. 今、柴又の中で課題と思われるものは(複数回答あり)

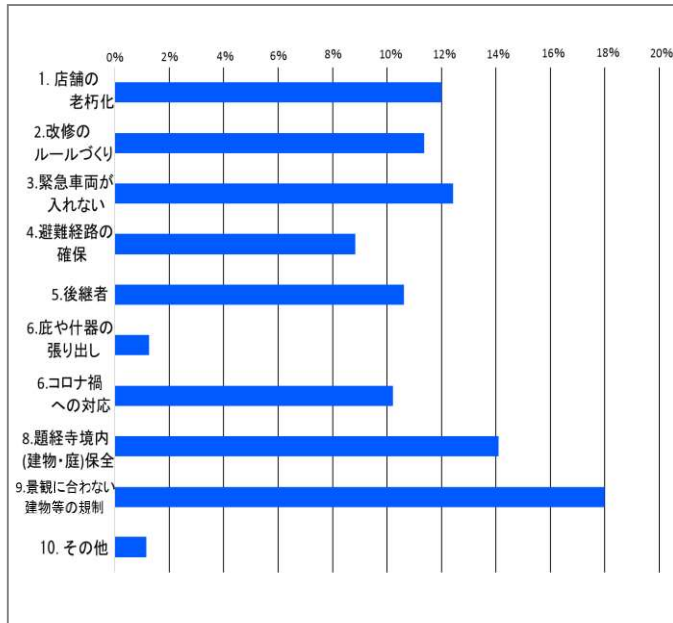


問題テーマ	回答数	割合
1. 景観保全	236	17%
2. 災害時の対応	246	18%
3. 交通安全	77	6%
4. 地域おこし	142	11%
5. 商店街活性化	234	17%
6. 伝統行事の継承	169	13%
7. コミュニティ活性化	99	7%
8. 観光客と治安(ごみ)	134	10%
9. その他	13	1%
計	1,350	100%

「2. 災害時の対応」(18%)が最も多い。次に「1. 景観保全」と「5. 商店街の活性化」が同率(17%)、次に「6. 伝統行事の継承」(13%)、「8. 観光客と治安(ごみ)」(10%)が続く。「3. 交通安全」(6%)は少ない。

災害時への対応や景観保全、商店街の活性化について課題認識が高い。

問5-1. とくに課題と感じている所（参道）（複数回答あり）

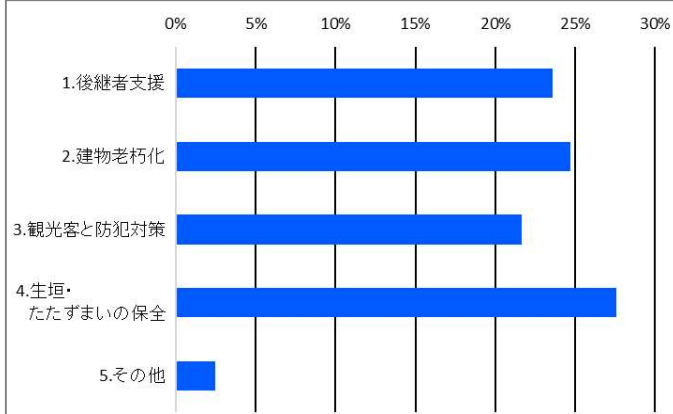


課題（門前）	回答数	割合
1. 店舗の老朽化	114	12%
2. 改修のルールづくり	108	11%
3. 緊急車両が入れない	118	12%
4. 避難経路の確保	84	9%
5. 後継者	101	11%
6. 庇や什器の張り出し	12	2%
7. コロナ禍への対応	97	10%
8. 題経寺境内（建物・庭）保全	134	14%
9. 景観に合わない建築物等の規制	171	18%
10. その他	11	1%
計	950	100%

「9. 参道景観にそぐわない建物や駐車場の立地防止」（18%）が最も多い。次に「8. 題経寺境内、建物、施設、庭園の保全」（14%）、次に「3.（参道）緊急車両が通行できない等の防災上の脆弱性」と、「1.（参道）店舗の老朽化」が同率（12%）で続く。

景観に合わない建築物等の規制、題経寺境内（建物、庭）の保全、緊急車両が入れない、店舗の老朽化のほか、その他の項目についても課題認識が高い。一方で庇や什器の張り出しについては、見慣れたせいも、景観上の問題認識は低いものの、「緊急車両が入れない」主たる原因が、張り出した庇や什器と考えられるため、庇や什器の張り出しについては、総じて問題認識が高いと分析される。このようなことについては、今後住民と話し合っていくことが求められる。

問5-2. とくに課題と感じている所（旧家・農家）（複数回答あり）

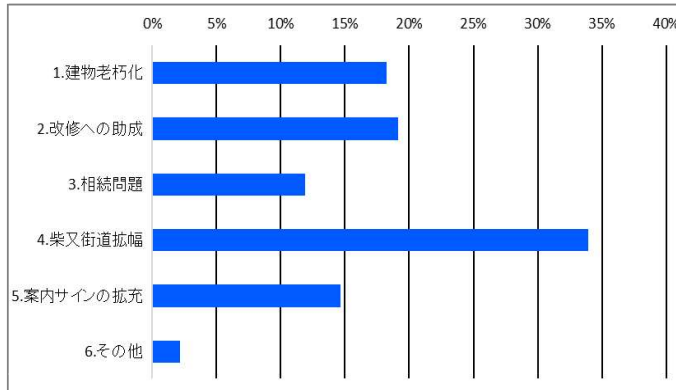


課題（旧家・農家）	回答数	割合
1. 後継者問題	123	23%
2. 建物老朽化	129	25%
3. 観光客と防犯対策	113	22%
4. 生垣・たたずまいの保全	144	28%
5. その他	13	2%
計	522	100%

「4. 生垣など旧家のたたずまいの保全」(28%)が最も多い。次に「2. 建物の老朽化」(25%)、次に「1. 後継者問題による旧家や農家への支援」(23%)と続く

生垣、建物、後継者問題への課題認識が高い。

問5-3. とくに課題と感じている所(まち並み)(複数回答あり)



課題(まち並み)	回答数	割合
1.建物老朽化	126	18%
2.改修への助成	132	19%
3.相続問題	82	12%
4.柴又街道拡幅	234	34%
5.案内サインの拡充	101	15%
6.その他	15	2%
計	690	100%

「4. 柴又街道の拡幅事業にともなう柴又らしさの保全と創出」(34%)が最も多い。次に「2. 建物改修への支援・補助」(19%)、次に「1. 建物の老朽化、雨漏り、損壊」(18%)と続く

柴又街道拡幅への課題認識が高い。

問6. これらの課題に対してあなたは、どのような取り組みが必要だと思いますか。(自由回答)

【柴又駅前広場】

- 昔の柴又が好きです。駅前、参道、柴又の本当の良さがなくなっていくようで寂しいです。
- 住んでいる側の感覚と観光について、何が大切なのか。どうバランスをとるのが良いのか、もう少しお互いの立場を考えるべきではないか。

【景観】

- 参道等の商店、農家、旧家等における、景観等を維持していくための個々の諸問題について、気軽に相談できる部署があればいいと思う。
- 参道は老朽化の問題もあるでしょうが、修復に際しても風情を残して今の景観を維持してほしい。後継者問題等もあり個人レベルでは難しい面があるので公的なサポートが必要だと思う。
- 「寅さん」を知らない若い世代にも、参道の景観を損なわず若い人が足を止める店舗づくりとか、魅力的な街づくりが急務ではないでしょうか。

問 7. 柴又の文化的景観のまちづくりについて、ご意見やアイデアを自由にお書きください。（自由回答）

【江戸川】

- ・柴又駅から参道、帝釈天まではつながっていて街歩きもしやすいが、江戸川土手や寅さん記念館などには行きづらいので、誘導する道順の整備や、案内図の設置や案内所、休憩ベンチ、トイレなどがあると良い。
- ・「フーテンの寅さん」で有名になったが、それまでは「東京の田舎」という印象を常に持っていた。近所は様変わりしても題経寺と江戸川沿いの風景は変わらない。これだけはこれからも残してもらいたいと思う。

【景観】

- ・このままの景観が続くといい。マンション等、柴又には絶対ダメです。あまりいじらずにそのままだと思う。
- ・昔ながらの柴又らしい景観を大切にしながら、災害に強いまちづくりを望む。道路整備に植栽が失われた地区があるので残念です。緑の多い街を希望します。

【情報の発信】

- ・素晴らしい取り組みですが、若い人の中では寅さんを知らない人も多くなってきているので、若い人にも寅さんや柴又の素晴らしさを発信してほしい。農家や旧家のことも知らなかったなので、そのあたりのことも、もっと発信してもらいたい。

【柴又駅前広場】

- ・柴又駅がリニューアルして、少しくらいになって若者が利用しやすくなったと思う。浅草のように「和コスメ」や「和スイーツ」があったら、「古いけど新しい」ものが好きな若者層がSNSで宣伝してくれそう。

6 文化的景観重要な構成要素一覧

第1のリング（1）

景観単位		要素名	種別 A 区域 B 道 C 水系 D 敷地 E 建築物 F 工作物 G 機能	文化的景観の 特徴との関係 ア ノード性（結節） イ 都市・農村の両義性 ウ 建築・空間の流動性	備考	
第1のリング	1-1	帝釈天題経寺境内	帝釈天題経寺の境内	A D F	ア ウ	
	1-2	帝釈天題経寺境内	釈迦堂（開山堂） ※帝釈天題経寺境内	E	ウ	
	1-3	帝釈天題経寺境内	祖師堂（本堂） ※帝釈天題経寺境内	E	ウ	
	1-4	帝釈天題経寺境内	帝釈堂 ※帝釈天題経寺境内	E	ア ウ	
	1-5	帝釈天題経寺境内	二天門 ※帝釈天題経寺境内	E	ア ウ	
	1-6	帝釈天題経寺境内	大客殿 ※帝釈天題経寺境内	E	ウ	
	1-7	帝釈天題経寺境内	大鐘楼 ※帝釈天題経寺境内	E	ウ	
	1-8	帝釈天題経寺境内	鳳翔会館 ※帝釈天題経寺境内	E	ウ	
	1-9	帝釈天題経寺境内	瑞龍のマツ ※帝釈天題経寺境内	F	ウ	
	1-10	帝釈天題経寺境内	邃溪園 ※帝釈天題経寺境内	D	ウ	
	1-11	帝釈天題経寺境内	御神水 ※帝釈天題経寺境内	C F G	ウ	
	1-12	帝釈天題経寺門前	帝釈天題経寺参道の両側の街区	A	ア イ ウ	
	1-13	帝釈天題経寺門前	ゑびす家	D E	イ ウ	
	1-14	帝釈天題経寺門前	船橋屋	D E	イ ウ	
	1-15	帝釈天題経寺門前	高木屋老舗（北）	D E	イ ウ	
	1-16	帝釈天題経寺門前	い志い	D E	イ ウ	
	1-17	帝釈天題経寺門前	空き店舗	D E	イ ウ	

第1のリング（2）

景観単位		要素名	種別 A 区域 B 道 C 水系 D 敷地 E 建築物 F 工作物 G 機能	文化的景観の 特徴との関係 ア ノード性（結節） イ 都市・農村の両義性 ウ 建築・空間の流動性	備考	
第1のリング	1-18	帝釈天題経寺門前	おつけもの丸仁	D E	イ ウ	
	1-19	帝釈天題経寺門前	吉野家	D E	イ ウ	
	1-20	帝釈天題経寺門前	柴又丸仁	D E	イ ウ	
	1-21	帝釈天題経寺門前	浅野屋	D E	イ ウ	
	1-22	帝釈天題経寺門前	松屋の飴総本店	D E	イ ウ	
	1-23	帝釈天題経寺門前	三仏屋	D E	イ ウ	
	1-24	帝釈天題経寺門前	川千家	D E	イ ウ	
	1-25	帝釈天題経寺門前	園田木彫店	D E	イ ウ	
	1-26	帝釈天題経寺門前	わかば園	D E	イ ウ	
	1-27	帝釈天題経寺門前	園田神仏具店	D E	イ ウ	
	1-28	帝釈天題経寺門前	旧市河家	D E	イ ウ	
	1-29	帝釈天題経寺門前	旧たなかや	D E	イ ウ	
	1-30	帝釈天題経寺門前	だるまや	D E	イ ウ	
	1-31	帝釈天題経寺門前	高木屋老舗（南）	D E	イ ウ	
	1-32	帝釈天題経寺門前	大和家	D E	イ ウ	
	1-33	帝釈天題経寺門前	金子屋	D E	イ ウ	
	1-34	帝釈天題経寺門前	とらや	D E	イ ウ	
	1-35	帝釈天題経寺門前	立花屋	D E	イ ウ	
	1-36	帝釈天題経寺門前	代々喜	D E	イ ウ	
1-37	帝釈天題経寺門前	茗荷屋	D E	イ ウ		
1-38	帝釈天題経寺門前	延命堂	D E	イ ウ		
1-39	帝釈天題経寺門前	大徳	D E	イ ウ		

第1のリング（3）

景観単位		要素名	種別 A 区域 B 道 C 水系 D 敷地 E 建築物 F 工作物 G 機能	文化的景観の 特徴との関係 ア ノード性（結節） イ 都市・農村の両義性 ウ 建築・空間の流動性	備考	
第1のリング	1-40	帝釈天題経寺門前	やぶ忠	D E	イ ウ	
	1-41	帝釈天題経寺門前	亀家本舗	D E	イ ウ	
	1-42	帝釈天題経寺門前	すずしろ庵	D E	イ ウ	
	1-43	帝釈天題経寺門前	中村堂	D E	イ ウ	
	1-44	帝釈天題経寺門前	そ乃田民芸店	D E	イ ウ	
	1-45	帝釈天題経寺門前	公衆便所	D E	イ ウ	
	1-46	帝釈天題経寺門前	帝釈天王安置の碑	F	ア	
	1-47	帝釈天題経寺門前	映画の碑・常夜燈	F	ア	

第2のリング（1）

景観単位		要素名	種別 A 区域 B 道 C 水系 D 敷地 E 建築物 F 工作物 G 機能	文化的景観の 特徴との関係 ア ノード性（結節） イ 都市・農村の両義性 ウ 建築・空間の流動性	備考	
第2のリング	2-1	国分道沿い	帝釈道	B	ア イ	
	2-2	国分道沿い	国分道（帝釈道）	B	ア イ	
	2-3	国分道沿い	八幡神社	D F	ア イ	
	2-4	国分道沿い	真勝院	D F	イ	
	2-5	国分道沿い	水神様	D F	イ	
	2-8	帝釈天題経寺南方・ 江戸川河川敷沿い	中通り	B	ア イ	
	2-9	帝釈天題経寺南方・ 江戸川河川敷沿い	山本亭	D E	イ	

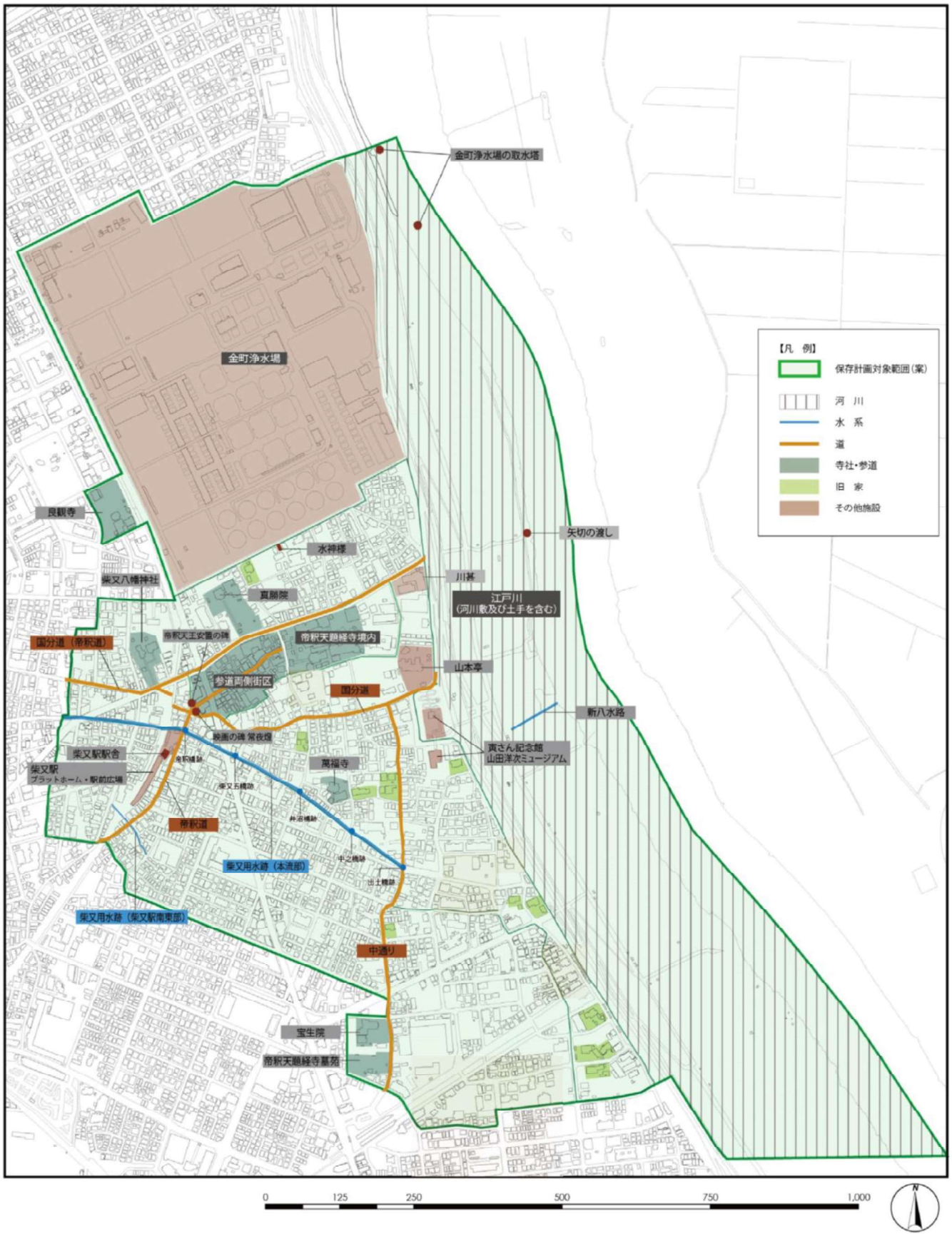
第2のリング（2）

景観単位		要素名	種別 A 区域 B 道 C 水系 D 敷地 E 建築物 F 工作物 G 機能	文化的景観の 特徴との関係 ア ノード性（結節） イ 都市・農村の両義性 ウ 建築・空間の流動性	備考	
第2のリング	2-10	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	萬福寺	D	イ	
	2-11	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家3	D	イ	
	2-12	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家4	D E	イ	
	2-13	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家5	D E	イ	
	2-14	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家6	D	イ	
	2-15	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家7	D	イ	
	2-16	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家8	D	イ	
	2-17	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家9	D	イ	
	2-18	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家10	D	イ	
	2-19	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家11	D E	イ	
	2-20	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家12	D	イ	
	2-21	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家13	D E	イ	
	2-22	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家14	D E	イ	
	2-23	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧川甚	D	イ	
2-24	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	山田洋次ミュージアム	G			

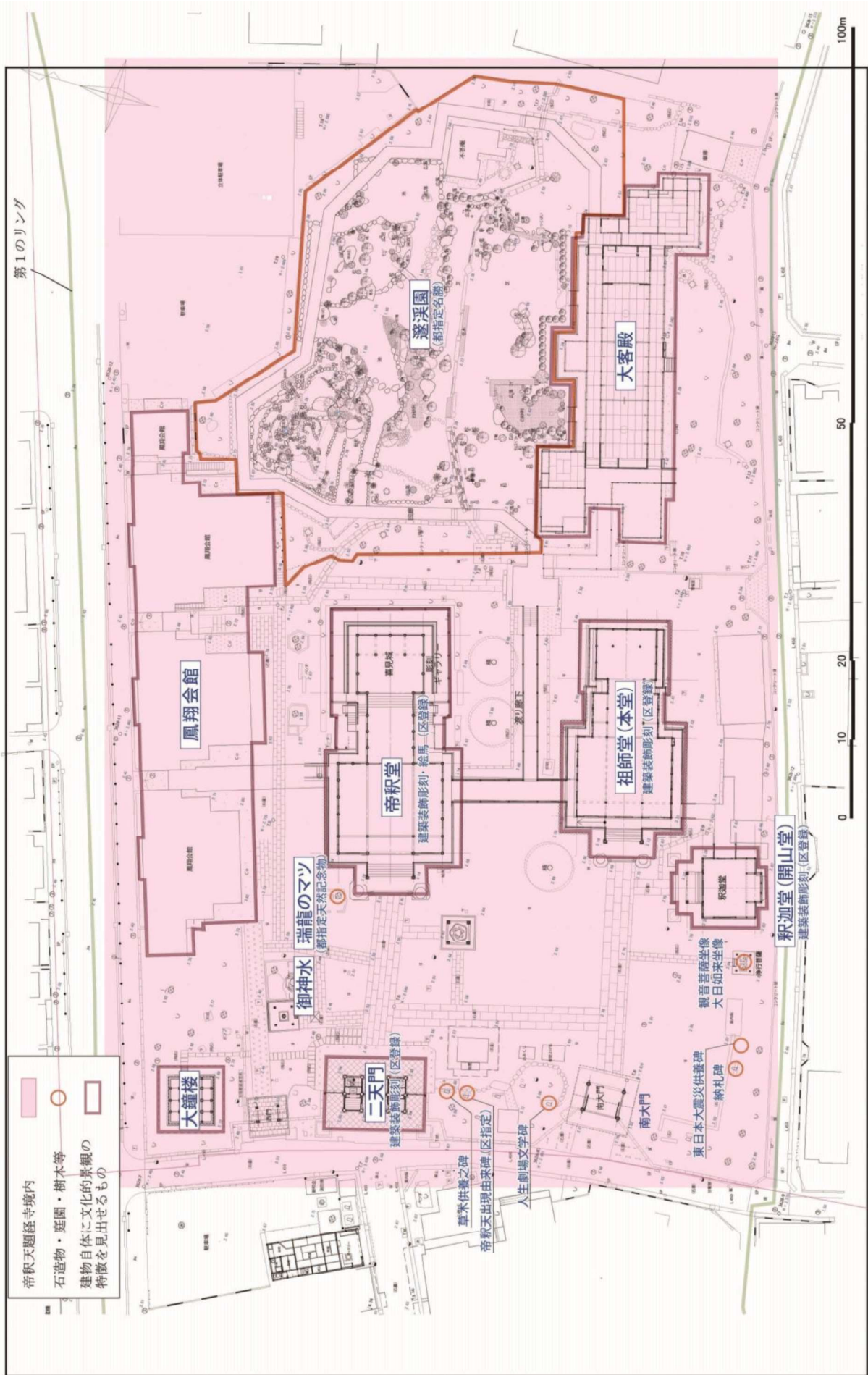
※重要な構成要素 2-6（旧家1）及び2-7（旧家2）は、価値の滅失により削除

第3のリング

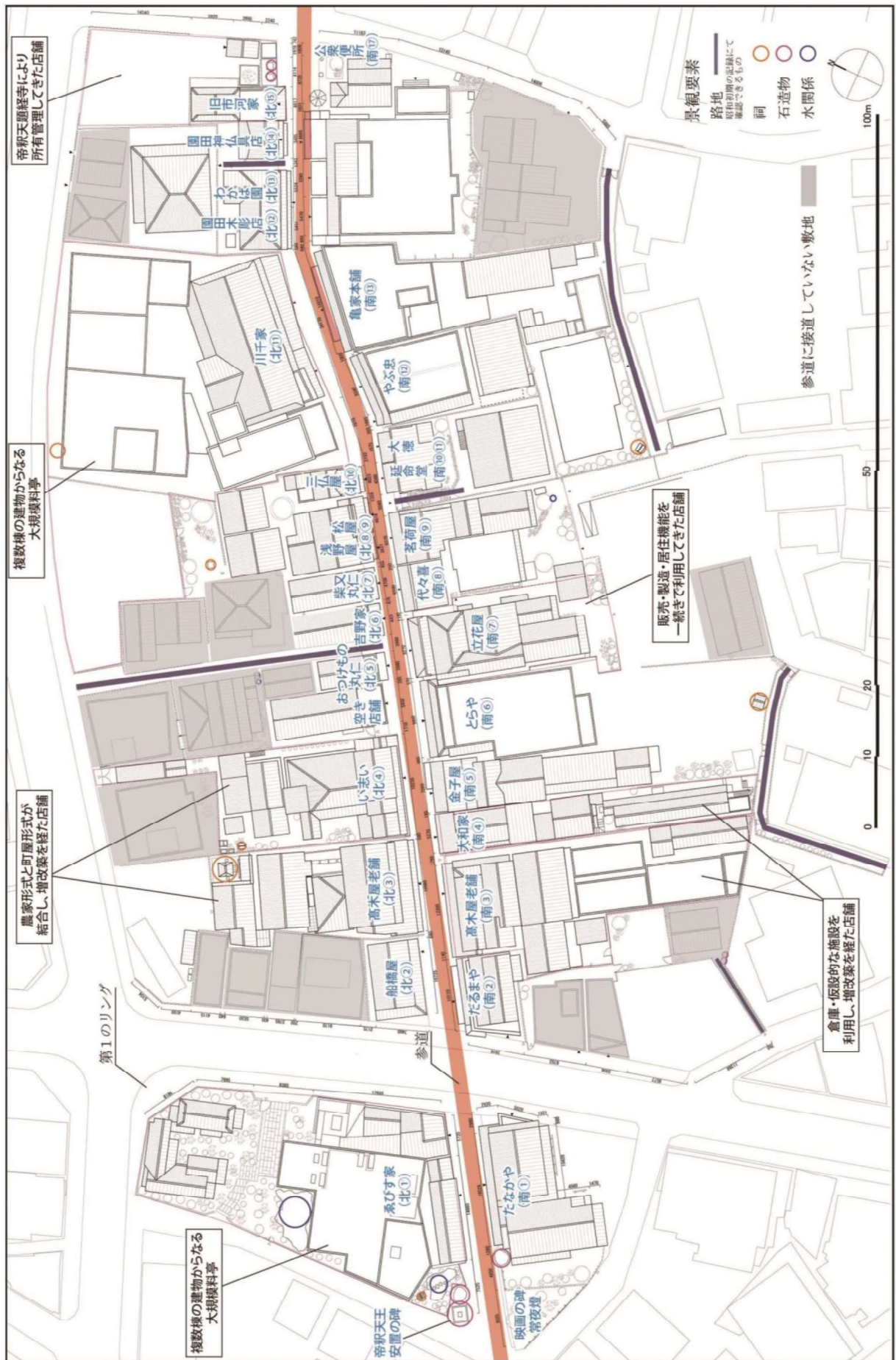
景観単位		要素名	種別 A 区域 B 道 C 水系 D 敷地 E 建築物 F 工作物 G 機能	文化的景観の 特徴との関係 ア ノード性(結節) イ 都市・農村の両義性 ウ 建築・空間の流動性	備考	
第3のリング	3-1	柴又用水受水域	柴又用水跡（本流部）	B C	イ	
	3-2	柴又用水受水域	柴又用水跡 （柴又駅南東部）	B C	イ	
	3-3	柴又用水受水域	柴又駅（駅舎及びプラットホーム）	D E	ア	
	3-4	柴又用水受水域	柴又駅前広場	D	ア	
	3-5	柴又用水受水域	宝生院	D E	イ	
	3-6	柴又用水受水域	帝釈天題経寺墓苑	D F	ア	
	3-7	帝釈天題経寺南方・江戸川河川敷沿い	旧家15	D	イ	
	3-8	金町浄水場付近	良観寺	D	イ	
	3-9	金町浄水場付近	金町浄水場	D G		
	3-10	金町浄水場付近	金町浄水場取水塔（2基）	E		
	3-11	江戸川河川敷	江戸川（河川区域）	A C	ア	
	3-12	江戸川河川敷	矢切の渡し	F G	ア イ	
	3-13	江戸川河川敷	新八水路	C	イ	
	3-14	江戸川河川敷	葛飾柴又寅さん記念館	G		



重要な構成要素位置図・配置図



文化的景観重要な構成要素位置図（帝釈天題経寺境内）



文化的景観重要な構成要素位置図（帝釈天願経寺参道）